

名古屋芸術大学

後援会報

第45号 2008年9月25日発行

ごあいさつ



後援会長
菅沼 行生

「もう大学生だから任せろ。」「自分でよく考えて判断しなさい。」

どの保護者の方もお子様が大学に入学されてからは、高校までのように生活・精神面において口を出さなくなられたことと思います。意識して手をかけないようにしていることでしょう。

国によっては、18歳以上の青年に選挙権を与えている国もあります。確かに、自分で考えて判断し、行動しなければならない年齢だと思えます。社会的な責任も問われる年齢です。手を離して当たり前の年齢です。

しかし、手をかける回数や度合いは減らしても、目をかける回数や度合いは減らさないでほしいと思えます。いつも見守っていただきたいと思えます。近くにいても遠くからしか見守ることしかできないかもしれません。下宿をしていて、本当に遠くからしか見守ることのできない保護者の方も多数おられると思えます。

子どもの状態を知るには、言葉を交わすことが一番だと思いますが、なかなか言葉もかけられないこともあると思います。子どもが本音を表すタイミングは一瞬かもしれません。そんな時、「あれ、少しおかしい」「どうしたのかな」と思われたら、早めに後援会にご相談ください。困ったことがあれば、何かお役に立てるのが後援会です。お子様の健やかな成長を願い設立したのが後援会です。ぜひ事務局や相談窓口にご相談ください。もう大人だからといってお子様を一人で悩ませることなく、大学側にも相談体制があることを教えてあげてください。保護者の方の悩みも同様です。話すだけでもすっきりすることもあります。親子で悩んだ場合は、それぞれでも構いません。親子同時でも構いません。どんな小さなことでも相談をもちかけてください。

学生のみなさんには、社会に出るまでの学生生活で、専門的な知識や技能の習得はもちろんですが、少しでも相手の立場を理解しつつ会話できるコミュニケーション能力や困難にも立ち向かえる自信や勇気をぜひ身に付けて欲しいと思えます。また保護者の方には、お子様の成長を人に任せるだけでなく、目をかけながら見守ってほしいと思えます。



学 長
榊 達雄

名古屋芸術大学後援会役員の皆様をはじめ保護者の皆様には、日頃から本学の教育および学生の生活充実のために、暖かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

本年は、昨年4月人間発達学部が発足し、本学が音楽学部、美術学部およびデザイン学部とともに4学部を擁する芸術系の総合大学となって2年目です。なお、音楽学部は2学科への再編最終年度、美術学部は1学科への再編初年度でもあります。4学部とも、カリキュラム編成において独自性を発揮するように工夫すると同時に、大学全体として芸術系総合大学としての内容をより豊かにするように努めています。

現在学校教育法により、大学の自己評価および認証評価機関による評価(第三者評価)が義務となっていますが、本学は、2005年4月大学基準協会(認証評価機関)に「自己点検・評価報告書」を提出し、2006年4月同協会から「適合」と認定されています。そして現在、建学の精神や大学の理念を改めて確認し、次回2010年4月の「相互評価」受審申請に向けて、体勢を整えて取り組みつつあります。建学の精神「至誠奉仕」は、現時点では、誠実に芸術や真理を探究し、もって社会に貢献することであると解し、大学の理念は、これを踏まえて、人間の感性を重視した芸術および人間発達に関する真理の探究を通して、平和で豊かな社会の実現に貢献しうる、理性と感性が調和した豊かな人間の形成を目指すものであります。この理念に基づき、学則において、芸術に関する専門の学術技芸、および人間発達に関する専門的知識を教授研究し、ならびに総合的教養を授け、もってわが国の芸術文化および人間発達の創造発展に寄与しうる人材を養成することを、目的としています。

本学は、以上のような建学の精神や大学の理念等を実現すべく、北名古屋市をはじめとする地域と提携するとともに、世界に開かれた大学として、海外の諸大学との国際交流も盛んに行っています。今後とも、本学の独自性を生かした特色を発揮し、充実させるよう努めていく所存です。

2008年度 名古屋芸術大学後援会 定期総会

2008年5月12日(日)13時より、西キャンパスB棟2階大講義室にて「2008年度名古屋芸術大学後援会定期総会」が開催されました。今回も先年同様、定期総会後の大学主催「教育懇談会」も催され、活発な質問、意見交換がなされました。

2007年度 名古屋芸術大学後援会事業報告

月 日	事 業 内 容	開催場所
5月13日	2007年度後援会定期総会事前打合せ 2007年度後援会定期総会	東キャンパス
5月30日	法人より委託徴収金振替 前期分	
5月31日～ 6月4日	イギリス プライトン大学ディグリーショー 後援会会長他大学関係者参加	イギリス
5月31日	後援会より補助金各学部一括交付	
6月23日	第1回役員会(所属委員会決定)	大須
7月7日	第2回役員・委員会 (後援会報編集方針/研修旅行企画)	西キャンパス
9月20日	名古屋芸術大学後援会報第43号発行	
10月13日 ～14日	後援会研修旅行 1泊2日	島根県
10月27日	第3回役員・委員会(顧問含む) 芸大祭参加	西キャンパス
1月12日	第4回役員・委員会(後援会報編集方針)	金山
2月13日	法人より委託徴収金振替 後期分	
2月23日	第5回役員・委員会(次年度役員案作成)	西キャンパス
2月29日	プライトン大学賞表彰式(会長)	名古屋東急ホテル
3月31日	名古屋芸術大学後援会報第44号発行	
3月21日	卒業式参列 (会長・副会長(総務委員長))	中京大学 文化市民会館
3月21日	謝恩会出席(会長・役員)	マリオット アソシアホテル
4月5日	入学式参列(2007年度会長、副会長)	西キャンパス
4月12日	2007年度会計監査(2007年度監査2名)	西キャンパス
4月19日	第6回役員会(定期総会準備他)	
備 考	以上のほかにも、後援会後援公開講座、就職活動補助事業、国際交流補助事業、施設・設備補助事業、授業料貸付事業等行いました。	



次 第

1. 開会のことば
2. 会長あいさつ
3. 学長あいさつ
4. 大学関係者紹介
5. 議長選任
6. 議 事
 - (1) 2007年度事業報告承認の件
 - (2) 2007年度会計決算報告承認の件
 - (3) 2007年度会計監査報告
 - (4) 2008年度事業計画案承認の件
 - (5) 2008年度予算案承認の件
 - (6) 2008年度役員改選
7. 旧役員あいさつ
8. 新役員あいさつ
9. 感謝状贈呈
10. 閉会のことば

2008年度 名古屋芸術大学後援会事業計画

月 日	事 業 内 容	開催場所
5月11日	2008年度後援会定期総会事前打合せ 2008年度後援会定期総会	西キャンパス
5月下旬	法人より委託徴収金振替	
5月28日～ 6月1日	イギリス プライトン大学ディグリーショー 後援会会長他大学関係者参加	イギリス
5月上中旬	後援会より補助金各学部一括交付	
6月28日	第1回役員会(所属委員会決定)	
7月12日	第2回役員・委員会 (後援会報編集方針/研修旅行企画)	西キャンパス
9月下旬	名古屋芸術大学後援会報第45号発行	
10月18日 ～19日	後援会研修旅行 1泊2日	
10月25日 予定	第3回役員・委員会(顧問含む) 芸大祭参加	西キャンパス
11月中旬	法人より委託徴収金振替 (両キャンパス後期分)	
1月上中旬	第4回役員・委員会(後援会報編集方針)	
2月下旬	第5回役員・委員会(次年度役員案作成)	西キャンパス
3月上旬	プライトン大学賞表彰式(会長)	
3月下旬	名古屋芸術大学後援会報第46号発行	
3月24日	卒業式参列(会長・副会長(総務委員長))	中京大学 文化市民会館
3月24日	謝恩会出席(会長・役員)	
4月上旬	入学式参列(2008年度会長、副会長)	西キャンパス
4月中旬	2008年度会計監査(2008年度監査2名)	西キャンパス
4月下旬	第6回役員会(定期総会準備他)	
備 考	以上のほかにも、後援会後援公開講座、就職活動補助事業、国際交流補助事業、施設・設備補助事業、授業料貸付事業等行う予定です。	

■2007年度 名古屋芸術大学後援会 決算書

1. 一般会計

2007. 4. 1～2008. 3. 31 単位：円

収入の部

	予 算	決 算	差 異	備 考
前年度繰越金	5,922,352	5,922,352	0	
会 費 収 入	27,000,000	27,060,000	-60,000	
特別会計より組入	300,000	300,000	0	福祉基金会計からの 資金移動
受 取 利 息	5,000	25,239	-20,239	
手数料他収入	140,000	231,750	-91,750	任意保険手数料
合 計	33,367,352	33,539,341	-171,989	

支出の部

	予 算	決 算	差 異	備 考
通 信 費	600,000	505,415	94,585	
旅 費・交通費	400,000	225,880	174,120	
会 議 費	550,000	485,957	64,043	
事務費・用品費	200,000	213,168	-13,168	振込手数料を含む
弔 慰 費	100,000	25,000	75,000	
渉 外 費	800,000	591,000	209,000	チケット代、 役員手当て
事務職員人件費	650,000	635,040	14,960	
(総務関係合計)	3,300,000	2,681,460	618,540	
芸大祭補助	3,200,000	3,200,000	0	
クラブ補助	6,299,850	6,299,850	0	前年度繰越金含む
就職活動補助	4,012,246	4,003,188	9,058	前年度繰越金含む
謝 恩 会 補 助	1,000,000	1,000,000	0	
学生自治会補助	500,000	500,000	0	
国際交流補助	1,034,675	985,518	49,157	前年度繰越金含む
公開講座補助	8,299,006	6,695,026	1,603,980	前年度繰越金含む
施設・設備補助	1,114,671	479,314	635,357	前年度繰越金含む
福祉事業補助	300,000	32,400	267,600	
学費貸付金資金振替	500,000	500,000	0	特別会計へ資金移動
教員・役員研修費補助	800,000	563,460	236,540	
(事業関係合計)	27,060,448	24,258,756	2,801,692	
広 報 活 動	1,400,000	942,480	457,520	広報誌・封筒(大・小)
広報誌郵送料	500,000	367,577	132,423	
広報誌手数料	50,000	0	50,000	
(広報関係合計)	1,950,000	1,310,057	639,943	
予 備 費	1,056,904	0	1,056,904	
次年度繰越	0	5,289,068	-5,289,068	
総 合 計	33,367,352	33,539,341	-171,989	

2. 特別会計決算書

(1) 特別積立金会計

収入の部

単位：円

	科目	予算	決算	差異	備考
1	前年度繰越金	4,005,283	4,005,283	0	
2	雑収入	1,000	6,583	-5,583	
3	合計	4,006,283	4,011,866	-5,583	

支出の部

単位：円

	科目	予算	決算	差異	備考
4	特別積立金事業計画	0	0	0	
5	次年度繰越金	4,006,283	4,011,866	-5,583	
6	合計	4,006,283	4,011,866	-5,583	

(2) 学費貸付金会計

収入の部

単位：円

	科目	予算	決算	差異	備考
7	前年度繰越金	9,295,309	9,295,309	0	
8	一般会計より資金繰入	500,000	500,000	0	
9	学生貸付金返済金	3,500,000	4,007,631	-507,631	
10	雑収入	0	17,112	-17,112	
11	合計	13,295,309	13,820,052	-524,743	

支出の部

単位：円

	科目	予算	決算	差異	備考
12	学生貸付金	6,000,000	3,545,000	2,455,000	
13	予備費	7,295,309	0	7,295,309	
14	次年度繰越金		10,275,052	-10,275,052	
15	合計	13,295,309	13,820,052	-524,743	

(3) 福祉基金会計

収入の部

単位：円

	科目	予算	決算	差異	備考
16	前年度繰越金	995,309	995,309	0	
17	雑収入	450	1,229	-779	
18	合計	995,759	996,538	-779	

支出の部

単位：円

	科目	予算	決算	差異	備考
19	一般会計に組入	300,000	300,000	0	福祉事業補助へ組入
20	予備費	695,759	0	695,759	
21	次年度繰越金		696,538	-696,538	
22	合計	995,759	996,538	-779	

(4) 学生生活基金会計

収入の部

単位：円

	科目	予算	決算	差異	備考
23	前年度繰越金	2,442,943	2,442,943	0	
24	雑収入	1,000	3,895	-2,895	
25	合計	2,443,943	2,446,838	-2,895	

支出の部

単位：円

	科目	予算	決算	差異	備考
26	講演会、パンフレット作成	300,000	0	300,000	
27	予備費	2,143,943	0	2,143,943	
28	次年度繰越金		2,446,838	-2,446,838	
29	合計	2,443,943	2,446,838	-2,895	

■2008年度 名古屋芸術大学後援会 予算書

1. 一般会計

2008. 4. 1～2009. 3. 31 単位：円

収入の部

	2008年度 予 算	2007年度 予 算	差 異	備 考
前年度繰越金	5,289,068	5,922,352	-633,284	
会 費 収 入	27,300,000	27,000,000	300,000	
特別会計より組入	300,000	300,000	0	福祉基金会計からの 資金移動
受 取 利 息	20,000	5,000	15,000	
手数料他収入	200,000	140,000	60,000	任意保険手数料
合 計	33,109,068	33,367,352	-258,284	

支出の部

	2008年度 予 算	2007年度 予 算	差 異	備 考
通 信 費	600,000	600,000	0	
旅 費・交 通 費	400,000	400,000	0	
会 議 費	550,000	550,000	0	
事務費・用品費	220,000	200,000	20,000	振込手数料を含む
弔 慰 費	100,000	100,000	0	
渉 外 費	750,000	800,000	-50,000	チケット代、 役員手当て
事務職員人件費	650,000	650,000	0	
(総務関係合計)	3,270,000	3,300,000	-30,000	
芸大祭補助	3,700,000	3,200,000	500,000	
クラブ補助	7,300,000	6,299,850	1,000,150	前年度繰越金含む
就職活動補助	4,009,058	4,012,246	-3,188	前年度繰越金含む
謝 恩 会 補 助	1,000,000	1,000,000	0	
学生自治会補助	500,000	500,000	0	
国際交流補助	1,049,157	1,034,675	14,482	前年度繰越金含む
公開講座補助	6,853,980	8,299,006	-1,445,026	前年度繰越金含む
施設・設備補助	935,357	1,114,671	-179,314	前年度繰越金含む
福祉事業補助	567,600	300,000	267,600	福祉基金会計からの 資金移動
学費貸付金資金振替	0	500,000	-500,000	
教員・役員研修費補助	800,000	800,000	0	研修費補助金
(事業関係合計)	26,715,152	27,060,448	-345,296	
広 報 活 動	1,500,000	1,400,000	100,000	広報誌・封筒(大・小)
広報誌郵送料	500,000	500,000	0	
広報誌手数料	60,000	50,000	10,000	アルバイト代
(広報関係合計)	2,060,000	1,950,000	110,000	
予 備 費	1,063,916	1,056,904	7,012	
総 合 計	33,109,068	33,367,352	-258,284	

2. 特別会計予算書

(1) 特別積立金会計

収入の部

単位：円

	科 目	2008年度 予算	2007年度 予算	差 異	備 考
1	前年度繰越金	4,011,866	4,005,283	6,583	
2	雑 収 入	1,000	1,000	0	
3	合 計	4,012,866	4,006,283	6,583	

支出の部

単位：円

	科 目	2008年度 予算	2007年度 予算	差 異	備 考
4	特別積立金事業計画	0	0	0	
5	次年度繰越金	4,012,866	4,006,283	6,583	
6	合 計	4,012,866	4,006,283	6,583	

(2) 学費貸付金会計

収入の部

単位：円

	科 目	2008年度 予算	2007年度 予算	差 異	備 考
7	前年度繰越金	10,275,052	9,295,309	979,743	
8	一般会計より資金繰入	0	500,000	-500,000	
9	学生貸付金返済金	3,500,000	3,500,000	0	
10	雑 収 入	10,000	0	10,000	
11	合 計	13,785,052	13,295,309	489,743	

支出の部

単位：円

	科 目	2008年度 予算	2007年度 予算	差 異	備 考
12	学 生 貸 付 金	6,000,000	6,000,000	0	
13	予 備 費	7,785,052	7,295,309	489,743	
14	合 計	13,785,052	13,295,309	489,743	

(3) 福祉基金会計

収入の部

単位：円

	科 目	2008年度 予算	2007年度 予算	差 異	備 考
15	前年度繰越金	696,538	995,309	-298,771	
16	雑 収 入	400	450	-50	
17	合 計	696,938	995,759	-298,821	

支出の部

単位：円

	科 目	2008年度 予算	2007年度 予算	差 異	備 考
18	一般会計に組入	300,000	300,000	0	福祉事業補助へ組入
19	次年度繰越金	396,938	695,759	-298,821	
20	合 計	696,938	995,759	-298,821	

(4) 学生生活基金会計

収入の部

単位：円

	科 目	2008年度 予算	2007年度 予算	差 異	備 考
21	前年度繰越金	2,446,838	2,442,943	3,895	
22	雑 収 入	3,500	1,000	2,500	
23	合 計	2,450,338	2,443,943	6,395	

支出の部

単位：円

	科 目	2008年度 予算	2007年度 予算	差 異	備 考
24	講演会、パンフレット作成	350,000	300,000	50,000	
25	次年度繰越金	2,100,338	2,143,943	-43,605	
26	合 計	2,450,338	2,443,943	6,395	

■2008年度 名古屋芸術大学後援会 役員・委員一覧

通番	役職名	氏名	学部
1	会長	菅 沼 行 生	美術学部
2	副会長(総務委員長)	高 木 早 苗	音楽学部
3	副会長(事業委員長)	破 田 野 マリ子	音楽学部
4	副会長(広報委員長)	後 藤 優 子	デザイン学部
5	副会長(会計)	大 塚 一 夫	デザイン学部
6	会計監査	中 嶋 一 司	デザイン学部
7	会計監査	足 立 葉 子	音楽学部
8	書記	河 村 正 子	人間発達学部
9	書記	澤 達 彦	美術学部
10	会計	早 川 英 津子	人間発達学部
11	監事	馬 場 達 郎	美術学部
12	総務副委員長	平 野 圭	音楽学部
13	総務副委員長	渡 邊 好 子	人間発達学部
14	総務委員	石 坂 洋 一	音楽学部
15	総務委員	佐 藤 佳 子	音楽学部
16	総務委員	水 野 和 美	美術学部
17	総務委員	佐 藤 俊 明	デザイン学部
18	総務委員	五 島 和 江	人間発達学部

通番	役職名	氏名	学部
19	事業副委員長	大 竹 百合子	人間発達学部
20	事業副委員長	原 田 昌 央	美術学部
21	事業委員	三 浦 幸 年	音楽学部
22	事業委員	三 輪 裕 子	美術学部
23	事業委員	臼 井 貴 子	音楽学部
24	事業委員	加 古 富 雄	デザイン学部
25	事業委員	高 田 千代子	人間発達学部
26	広報副委員長	磯 野 正 春	デザイン学部
27	広報副委員長	松 林 さとみ	音楽学部
28	広報委員	山 田 里 美	美術学部
29	広報委員	鈴 木 政 司	デザイン学部
30	広報委員	長 尾 恵利世	人間発達学部
31	広報委員	山 下 智 春	人間発達学部



全議題は、賛成多数で承認されました。また、最後に役員を退任された方に対して、大学より感謝状が贈呈されました。退任された方々は、馬場達郎さん、島田加寿子さん、荒川裕子さん、加藤泉さん、森田 優・和子ご夫妻の5名です。長年にわたってありがとうございました。



2008年度 学生部報告

学生部長 竹本 義明

学生部報告

昨年の人間発達学部の設置に続き、今年度は美術学部が改編し1学科多コース制となりました。また、短期大学部が3月末をもって廃止され大学の改革改編が一段落した感があります。

このような中で、大学は今までも増して教育の質が求められ、授業について教員は学生に対し真摯な態度で向き合い、丁寧な授業を心がけてカリキュラムの点検により詳細なシラバスの作成に力を入れてきました。しかし、まだまだ不十分であり、なかでも教授法の取り組みが遅れているように感じています。そのことが授業を巡る様々な問題を引き起こす原因となっており、引き続き改善に努めて参ります。

教務関係

2008年度は4学部体制が整うため、完全に4学部共通の学事暦をしっかりとしたフレームで構築することに主眼をおきました。全学部での学事暦の統一により半期15週、通年30週の授業確保が確実になり、それにより昨年の窮屈な授業展開を回避することができました。

資格を取巻く状況

教員免許状取得に関して、昨年は実習現場から苦情が多数寄せられ、今年は学内で特別講座を行う等改善に努めました。最近では、教員免許状取得を希望する学生が無条件で教員免許状が取得できるということが厳しくなっています。学芸員資格については、全国で毎年5,000人を超える学生が資格を取得していますが、資格を生かして就職できるのは数パーセントという厳しい状況があります。

安易な資格取得は、就職に繋がらないということを認識する必要があります。

各種免許状取得と費用徴収

教員免許状や学芸員資格の資格・免許に関わる実習費の徴収については、実費徴収として実習謝礼金は学生が直接実習校あるいは実習先に支払うことに改めました。

学生生活関係

学生相談質への相談件数とその内容について、学生相談室運営委員会のまとめでは、2007年度(4月～12月)相談件数：737件(東：374 西：363) 昨年の658件を上回っています。

理由は学生指導にかかる教職員が、52～131件と大幅に増加したことによります。学生の相談件数だけで見ると582～575件と微減しています。実際の数字は、短大生の性格検査の問い合わせでの来室であり、学生の実質相談は(東：48名 西：45名で合計93名)。相談の割合は、全学生(1年生から院生：1995名)の4.7%であり、相談室が機能しているとされる数値4%を上回っています。相談内容は、精神衛生：32%、修学上の問題：15%、学生生活：8.7%、対人・異性関係：8.3%が上位を占め、全国的な学生相談の傾向と一致しています。

一人あたりの面接回数は平均6.2回となっています。その他の活動は、中途退学者への予防活動として今年度はGW前に新入生対象の談話会を実施しました。

昨年の退学者数は、全国の大学の平均的な数字である在籍学生数の3%～5%の間で推移していますが、美術学部で若干減少傾向となっています。今後とも学生相談室をさらに充実させ、また教職員の適切な指導を仰ぎ改善して参りたいと考えています。

就職状況

大学生生活や修学において一般大学と比較して満足度が高いが、卒業後の就職問題でご父兄の悩みが大きくなっています。一般的には大学生の就職定着率が3年間で30%離職するという状況があり心配されます。

本学の特徴として、特に芸術系の場合は作家や演奏家を目指す創造活動へ進むことが考えられますが、一般企業と違い落ち着くまで数年の猶予が必要と認識することが必要です。

就職について、両キャンパスで学部3、4年生に2年間で年間30回に及ぶ就職・進学講座を行っておりますが、まだまだ学生の積極性が足りないような印象を持っています。東キャンパスでは174人の卒業生の中で就職・進学希望者が138人で、就職・進学率が90.6%で、一般企業への就職割合が高くなっている特徴があります。西キャンパスでは、268人の卒業生の中で就職・進学希望者が206人で、就職・進学率が87.4%で一般企業への就職が65%で、その中でも40%が美術・デザイン関係の企業となっています。両キャンパスともに一般企業に就職する割合が高くなっていることから、引き続き情報を発信し就職意識を高めることを実施して参ります。

名古屋芸術大学近況報告

音楽学部

《演奏学科》

声楽コース

今年4月より本コースには星野行則教授、土佐誠教授の2名が加わりました。共にこの名古屋ではよく知られた声楽家でありまして、星野行則教授はとくに地元社会人合唱団の指導で定評があり、また女性指揮者として有名な松尾葉子さんの先生として知られています。土佐誠教授は地元のオペラグループ、名古屋オペラ協会などで主役を何回も務められて好評を博されてきました。今後とも大きな力で声楽コースを支えて下さるものと期待されています。

声楽コースでは毎年恒例のオペラ公演を今年度も開催します。国際交流公演と銘打った公演は今年3回目になりますが、現在各国の姉妹提携校に出演学生を打診中でありまして。ただ残念なことにとこの大学も男子学生が少なくまた今年予定している演目の役をこなす学生がいないようで国際交流公演が困難な状況です。今年度はカウ・アレリア・ルスティカーナを上演の予定です。また今年度より、この公演の抜粋を地元中学校におきまして芸術鑑賞教室として2回のボランティア公演を行う予定です。これは学生にボランティア活動の促進と学生の発表の場を広めるという目的で実施するものです。

声楽コース 教授 澤脇 達晴

ピアノコース

ピアノコースでは今年度5月に始めて海外での演奏会を持つことができました。姉妹校のハンガリー・リスト音楽院とファルバイ先生のご協力を得て、古谷演奏学科長指揮のもと、ブタベスト・カンマーオーケストラとのピアノコンチェルトのタベと、リスト音楽院学生合同のピアノソロ演奏会でした。二晩共、大盛況でブタベスト市民からも沢山の賛辞をいただき、学生達にも大きな自信になったことと思います。又同時にリスト音楽院でピアノ講習もしていただき20名の学生が参加し、よい勉強をさせていただきました。7月には毎年恒例の、ピアノコンチェルトのタベ、8月にはサマーコンサートを予定いたしております。

今年度特別客員教授として、アレクサンダー・セメツキー先生をお招きし、前期は「バッハのシンボジウムについて」という大変興味深い講義をしていただきました。又、専任教員として、渡部久雄先生、田中航造先生をお迎えし、益々充実した教育を展開したいと思っております。

ピアノコース 教授 岡 由美子

電子楽器選択コース

新1年生10人(総合1名含む)、初の院生、新たな研究生2名を加え、43名です。今年から僕自身も准教授職につき、非常勤講師にヤマハグレード界の重鎮、増田豊先生にも来て頂き、新風が吹き荒れる(?)電子楽器コースです。春の伏見の堀川フラワーフェスティバルでの野外演奏、オープンキャンパスのコンサートには、新1年生を多数含んだ学生らが積極的に参加し、活気も申し分ありません。つま恋での第一回・電子コース合宿や12月11日の定演に向けて、さらなる元気が溢れてきている…といった雰囲気です。

電子楽器コース 准教授 鷹野 雅史

弦管打・バンドディレクターコース

7月はじめ10日間姉妹校であるデンバー大学のセミナーに、金管の学生がトランペットの星先生とともに参加し、アメリカのプラスに直に接することができました。

又、今年で3回目になりますが、8月5.6.7日弦楽器の学生は木祖の大学のセミナーハウスで基礎テクニックと室内楽の合宿訓練に出かけ、弦の先生、卒業生も含めレッスンとアンサンブルに明け暮れました。また夜は客員教授の後藤先生の即興演奏など聴くことができ、有意義な3日間を過ごしました。

又、アンサンブル研究所主催で卒業生の2つの大きなグループが誕生しました。フルートオーケストラと弦楽アンサンブルです。弦は9月10日電気文化会館「ザ・コンサートホール」で演奏会が開かれます。卒業しても名芸のもとに集ってアンサンブルをしてくれることに、大変うれしく楽しみにしております。

弦管打・バンドディレクターコース 教授 森 典子

《音楽文化創造学科》

音楽文化創造学科では、それぞれのコースが独自のスキルの教育に力を入れる一方、コースを越えた活動を行い、新たな文化を創造していく学生の育成を目指しております。以下に主な活動状況をお知らせします。

◎サウンドメディア、音楽療法コースでは、新入生のためのセミナーとして、9月9日、10日に、小淵沢・八ヶ岳にて、研修合宿を実施しました。作曲、放送メディア関連の講座やマリオンネットシアター鑑賞と講座を開催し、各コースの知識をさらに深めると同時に、学生、教員間の有効な交流も図ることができました。

◎サウンドメディアコースでは、7月6日2号館スタジオにて、毎日放送 放送 運営局 送出部 専任部長 入交英雄先生を招き、「サラウンド制作の手法について」の特別授業を行いました。レコーディング、PAを研究する学生が受講しました。また、8月には4年生のインターシップとして、名古屋のテレビ局、番組制作会社、音楽制作会社などを見学し、実際の業務の詳細を研究しました。

◎ジャズ&ポップスコースは、今年度で完成年度を迎え、学生数の増加、在学生の演奏技術向上により、学生の意識も充実してきています。学内でのロビーコンサートが定着し、学生のセッションが毎回特色ある企画で出演しており、今秋には「スペシャル・ロビーコンサート」として、学生と教員の総出演、そして特別ゲストを迎えたコンサートを計画しています。今年度は、初めての卒業生を送り出すこととなり、卒業演奏会も学生の意見を取り入れた内容の企画となります。前期の公開講座は、山下洋輔、森山威男の特別客員教授による講座と、特にピアノの公開講座「クリスチャン・ジェイコブ ピアノトリオ」と「祐子・グルダ ジャズピアノ講座」を行いました。8月には「NAGOYAまちじゅう芸術祭」に出演し、オアシス21においてオープニングコンサートを含め3日間演奏を行いました。

◎音楽教育選択コースでは、「学生たちにさまざまな楽器体験を」という考えからハンドベル、雅楽、大正琴などの講座を設けています。さらに、ピアノの構造にも精通すべく、今年度から新しくピアノ調律講座を開講しています。一方、今年も地方の学校(教育現場)へ演奏旅行を実施する予定で、目下練習中(9月4～6日、石川県珠洲市)。また、来年1月下旬から2月初旬にかけて、ゼミ研修で「日本民謡に触れる旅」を計画中です(行き先:富山県五箇山)。

◎ミュージカルコースは、この4月に11名の新入生を迎え、いつものようなエネルギーで賑やかなスタートを切りました。フレッシュマンたちには、ミュージカルの楽しさを精一杯に味わってもらいつつ、レッスンと公演に耐えられる身体作りをしてもらっています。やがて、「楽しい」などとは言ってられない時期が来ます。それまではミュージカルと出来る限り戯れてもらうようにしています。そんなことを体験出来るのはこの時期しかないのですから。残念なことですが、今、高校にはミュージカルを本格的に学ぶ講座はありません。名古屋芸大に入って、初めてミュージカルを学ぶこととなります。そういう意味では、皆が同じスタートラインに立ち、一斉にスタートを切ることとなります。最初の課題は6月のオープンキャンパスの際に行われた「ミュージカル公開リハーサル」への挑戦です。ここでは、毎回、日常のレッスンで振付けられたダンスやミュージカルナンバーを、ショー・スタイルにして観て頂いています。フレッシュマンたちにとってはこれがファースト・ステージとなります。「緊張しました!」、「楽しかった!」、「思うように踊ることが出来なくて悔しい!」。各人の感想は様々

です。しかし、ミュージカルコースのスタッフの想いは同じです。「出来ることなら、この中から日本のミュージカル・シーンを支える人材が出て欲しい」。更に、ミュージカルコースでは、1年生から4年生、ミュージカル研究所の研究員までが一緒になってのリハーサルが日常的に行われています。後輩は先輩から学び、先輩は後輩たちから痛烈な刺激を受ける。この繰り返しの中で、ミュージカルコースが一つのカンパニーとなって、各種の公演に取り組んでいます。夏休み中も幾つものレッスンとリハーサルが進行しています。9月に行われる秋のオープンキャンパスの為のリハーサル、来年2月に行われる学年別の終了試演会の為のリハーサル、同じ2月に飛騨高山で行われるミュージカル公演『眠りから覚めた眠りの森の美女』の為のレッスン、そして3月に予定されている『Pritty,Mighty,Jeanne!』の準備も始まりました。ミュージカルコースはいつも動き続けています。若者たちのエキサイティングなステージに是非、足をお運び下さい。

◎音楽ビジネス・ステージマネジメントコースでは、現在ハードな実践授業を少し控え、机上中心授業を展開しています。しかし、その中でも昨年度のリクエスト企画2つと、継続企画2つの実践授業を実施する他、新規企画1つを予定しております。

☆リクエスト企画

- 1、官学協同企画「音楽鑑賞講座3」年6回シリーズ
(6/28、8/23、10/25、11/8、12/13、2/21)
小牧市に根付きつつある毎回超満員の人気講座。
- 2、地域密着型企画「港101・ライブコンサート」
年3回シリーズ(8/29、11/22、3/1)
港商店会、企業界がバックアップする人気ライブ。

☆継続企画

- 1、音楽情報誌出版「音蟻：2008年Vol.7」
音楽ビジネスコースがとらえた最新音楽情報。
(9月発刊)
- 2、新人発掘「電子オルガンの世界」ソリスト澤村麻依子。
CD制作から、新人デビューまで。(10月発売予定)

☆新規企画

- 1、「ショッピングモールイベント」(株)ティプランとの産学協同企画。
アクアウォーク大垣、エアポートウォーク名古屋の2ヶ所で10月スタート(予定)



◎音楽療法コースでは、以前に引き続き地域の高齢者施設、療育施設、作業所で音楽療法実践活動を行っています。一年生の見学実習から徐々に段階を踏み、四年生になると学生が自主的に音楽療法セッションの組み立て、実施、評価まで手掛けています。また、授業のみでなく学生たち自らチームを組んで様々な施設等に音楽療法ボランティアに出向いている姿はとても頼もしいものです。また本コースは、実践のみでなく知識面での向上も望めます。来年1月に行われる日本音楽療法学会認定音楽療法士(補)の試験に向けて、四年生目下奮闘中です。

◎作曲理論コースでは本年3月、専攻学生、並びに総合コースで「作曲研究」を履修している学生の室内楽作品を対象に、試演会を実施しました。

音楽文化創造学科長 田中 範康

《演奏学科・音楽文化創造学科》

音楽総合コース

総合コースでは4月1,2日両日で、フレッシュマンキャンプを演奏・音文創造両学科総合コース新入生を対象に行いました。総合コースへ入学する学生が増えるなか、コースのシステムなどの集中オリエンテーションが不可欠となり、教員及び指導係の上級生を含め、総勢70名で八ヶ岳清里高原ホテルにて行いました。6月は音楽ビジネス学会へ4名が参加するなど、他コースでの行事にも積極的に参加しています。



美術学部

日本画コースでは、準備期間も含むと約3年間、フランス、シャロン・シュール・ソヌ市にあるサン・ヴァンサン大聖堂のフレスコ壁画「聖母の御眠り」を日本画の材料を使用して模写させていただき事業に取り組んで参りました。

この壁画は、15世紀に制作されたものですが、年を経るに従って傷みも激しかった為、我大学の名誉教授であり、フランス政府公認の壁画修復士でもある高橋久雄先生の手により、1984年から1997年まで13年の歳月を費やして甦ったフランスでは作例の少ない秀作です。その模写作品を日仏交流150周年記念展として発表し、フランスの文化遺産と日本画による表現を、広く紹介することにより様々な交流が出来ればと思います。

本年(2008年)5月に完成を迎え、オリジナル作品のあるフランスと、日本での発表の第一弾として、パリ、ユネスコ本部とシャロン・シュール・ソヌ、サン・ヴァンサン大聖堂での発表を行うこととなりました。

ユネスコ本部での展示は試行錯誤の繰り返しであった。フランス語表記の誤り、用意された壁面への展示方法の変更等今後の発表への参考になるものであった。

オープニングは、50名余りの招待客(大使館、ユネスコ、報道、航空会社、教育関係の方々等)を迎え、松浦晃一郎ユネスコ事務局長、渡辺在仏日本国公使、神戸学部長、高橋久雄先生の挨拶で始まり、会場をレストランに移して近藤ユネスコ大使の挨拶でレセプションが盛大

に開催された。

会場が国際機関である為、セキュリティの関係で誰でも自由に入れるという訳には行かないが、ユネスコ内の展覧会を観に来た方、会議の為に来ている方等、世界各国の方々が内容についてフランス語、英語を交えて深く質問されることも多く、興味を持って観て下さった。又、期間中、高橋先生、奥様が常に通訳を兼ねて説明してくださり細かく内容は伝わったように思う。

フランス第2の展覧会場シャロン・シュール・ソヌ、サン・ヴァンサン大聖堂に於いては、荷物を積んだトラックを警察の白バイ2台が先導をして下さるほど歓迎して下さいました。

市の歓迎レセプションも副知事、助役、神父さん、日本大使館の担当官、市役所の方々、オータンから掛けつけて下さった方々の参加で盛大に執り行われた。

大聖堂の展覧会場は、私たちが今まで入ることも出来なかった奥の部屋を特別に用意して下さって、中世の空気の中で催すことが出来、より効果的なものであった。模写を行った現地ということもあって、オリジナルと見比べて鑑賞できることが一つの利点になったようで、訪れた皆さんから賛辞を幾度と無くいただくことが出来た。

展示方法としても、本画、制作過程のパネルと映像での紹介、日本画材の紹介が、より解り易く出来ていたことで、深く理解していただいたものと思う。また、この

催しが行われたことへの感謝の言葉も数多く頂くことができた。

このことは現地の新聞にも掲載され、ポスターのみならず、新聞を見て来たという方々も数多くみられた。併せて日本画のワークショップにも多くの方が興味を持ってまた、大変喜んで参加して下さり大盛況のうちに開催することが出来たことは大変喜ばしいことであった。

この展覧会に際して準備から、会期中を通してご尽力頂いた高橋久雄先生ご夫妻に心より感謝申し上げます。

美術文化学科では前田ちま子教授の「アートエデュケーション」の授業を起点にして、地域の美術館と連携したワークショップが毎年開催されています。今年は、名古屋ボストン美術館で「モネの世界に飛び込み隊！」(7月5日)、「光と色のモネMagic」(7月6日)が行われました。また、碧南市藤井達吉現代美術館でのワークショップや愛知県美術館での夏休み子供鑑賞会などにも学生たちがスタッフとして積極的に関わってくれました。今後の成長が楽しみです。後期には、芸術環境創造選択コースが中心となって造形科の庄司達教授の小企画展をG棟ワーキングルームにて開催します。

2007年度 美術学部 西キャンパス内 ガラスオープン授業 報告

日 程：2007年9月18日、19日の2日間

参加者：名古屋芸術大学 西キャンパス学生 計20名

(定員20名公募による先着順 <デザイン学科、絵画科、造形科、美術文化学科>)

講 師：マイケル・シャイナー (造形科 工芸<ガラス>選択コース 教授)

アシスタント：工芸<ガラス>選択コース非常勤講師 同コース学生

教 室：ガラス工房

授業内容：

初日、午前の授業は、受講学生にガラスの特性、技法を知ってもらうため、講師マイケル・シャイナーによる吹きガラスのデモンストレーションから始まった。

午後からの授業では、制作する作品のアイデアを決定するため「構築する形態」をテーマに2チームに分かれコンペ形式で行った。まず、それぞれのチームでプロジェクトのアイデアスケッチを行い、日時計をモチーフにした太陽の光の移り変わりを表現するもの、ガラス棒で構築された光のトンネル・ドームをイメージしたものの2つが候補にあげられた。そして、講評会の最後に学生、アシスタント講師で投票を行った結果、得票数が同じであったため2つのアイデアを組み合わせたプロジェクトに決定した。次に、2つのアイデアスケッチを基にマケットの制作に入り、20名の学生が製図や加工などそれぞれの得意分野を生かしチームワークでプロジェクトの準備を行っていった。

2日目には、模型マケットをもとに、素材用のガラス棒を西キャンパスの野外において構築していった。使用されたガラス棒は、既にガラス工房で溶けているガラスを巻き取り、ガラスコース学生と参加学生と共に100キログラムに及ぶ大量のガラス棒を引き伸ばし制作したものだった。制作は参加者の熱意から、暗くなるまで続けられ、予定時刻を大幅に過ぎて完成した。作品はライトアップされ、完成された作品「移り変わる時間と光のドーム」を囲んで最後に参加者と鑑賞者を交えパーティを行い、今回のプロジェクトの成功と新たなチームの出会いを祝った。



ガラスオープン授業

デザイン学部

4月5日の入学式で新入生を迎え、デザイン学部でも、今年の新しい年度が始まりました。オリエンテーションに続き、学生一人ひとりが履修科目を登録し、授業が始まります。講義科目、演習科目、実技科目と前期は7月末まで通常授業が行われました。

実技授業のほんの一こまを紹介しましょう。

デザインを学ぶものとしての共通の基礎実技を習得するためのファンデーション授業では、「ミメシス」と呼ばれる授業では学生がそれぞれ選んだ野菜や果物を、紙粘土で本物そっくりにつくります。表面から見ただけでは本物と見分けがつかぬくらいに精密につくり着色します。この観察力によって精密な描画、さらには色彩構成、また芯材による立体構成や、スケッチ、デッサン、製図、石膏による成型実習、普段なにげなく見ている目には見落としがちな日常の視野の中からテーマを決めて観察力を高める「取材」など1年生の前期はこのような実技を習得することで充実した日々を送ってきました。

2年生からは、新しく写真と版画にウェイトをおいたメディア・コミュニケーションコースを発足させたメディア・コミュニケーション(MC)ブロック、さらにセラミック・デザインコースを発足させたプロダクト・スペース(P・S)ブロック、そしてクラフト(Cr)ブロックのそれぞれのブロックに進んだ学生は、ライフスタイルブロックをあわせてそれぞれの専門に分かれたカリキュラムのもと今年も授業が展開されてきました。前期に制作される作品はたんに課題として制作されるだけでなくそれが人前に発表され、何らかの評価を受けることでひとサイクルを終えます。それは様々な形で発表されます。講評会、あるいはコースやブロックによる学内の様々なスペースでの展覧会。オープンキャンパスの中でも一部展示されました。

夏休みを目前にどの教室でも、クラス全員の前に自分

の作品について発表する学生の緊張した面持ち、教員の講評、和やかなざわめき、ときには発表者に対する拍手も聞かれました。

今年も通常授業に加えて、多くの特別講義が行われました。

4月にはドイツのグラフィック・デザイナーのヘルムート・ランガー氏を招いて公開の特別講義とワークショップが行われました。これは、UNEP(国連の環境計画)やCSCP(持続的消費と生産センターの企画による、グローバル化がすすむ中でのほたらく職場の改善をテーマにした「スマート・ビジネス」という世界11ヶ国のデザイン教育機関が取り組む国際プロジェクトで、3年生を中心としたヴィジュアルデザインとイラストレーションの学生を中心に取組まれ、ランガー先生の一人一人の学生への懇切な指導の中、デジタル工房を中心に学生たちの熱心な取組みで作品が完成され、学内での展覧会も開かれました。

6月にはメディア・コミュニケーションコースが中心になって新進のブックデザイナーとして有名な祖父江慎氏を今年度の特別客員教授として招き、公開の特別講演会が行われました。テレビでもおなじみになった祖父江先生の話が聞きたいと学外からも一般の人々も大勢が訪れ、会場の大講義室は立錫の余地も無いほどの聴衆でいっぱいになりました。ていねいで、独特のユーモアあふれるジェスチャーを交えた口調の講演に会場は終始にわいていました。同氏による特別授業は7月にも引き続きおこなわれ懇切授業に参加した学生達は口々に「よかった!」と満足あふれる笑顔で答えていました。

「広告表現論」の一環の特別講義も公開で行われました。今年度は映画の故黒澤明監督の片腕といわれ、今年封切られた映画「かあべえ」の原作者である野上照代氏、[TIME]誌のカバー版などのデザインで有名なイラ



ヘルムート・ランガー氏 特別講義



祖父江慎氏 特別講義



ストーリーの秋山 育氏、地元名古屋を中心に質の高い仕事をしてきたグラフィック・デザイナーの山内瞬葉氏が、それぞれの仕事の中で印象深い言葉を学生に熱っぽく語りかけました。

また、メディア・デザインコースではソニーマーケティングの内藤友宏氏をまねいて最新技術についての特別講義、クラフトデザインコースでは、漆工芸について金沢美大教授で漆工芸作家の田中信行氏の特別講義が行われました。

また今年度も講義「デザインと文化」では、今日それぞれの分野の現場で活躍する、デザイナー、研究者を隔週ごとに講師に招いて現在の文化状況とデザインのかかりについて語ってもらっている。サステナブル・デザインについてINAX総合技術研究所の宮脇伸歩氏、テキスタイル・デザインと現代彫刻について衣服造形家の真田岳彦氏、現代のジュエリーデザインについて光島和子氏、商業映像とデザインについて映像作家の喜田夏己氏、セラミックデザイナーの仕事ぶりについて小林俊介氏と三浦未由希氏に、歴史工学的視点で建築からグラフィックデザインの今日的関連についての話を建築史家の中谷礼仁氏、さらにタイポグラフィーの専門家味岡伸太郎氏、ブックバイnderのデザインの分野で活躍する西尾彩氏等による専門講義が続くなかで学生達の真剣に聴講する姿が見られました。

企業との連携による教育・研究は、様々なコースで行われています。大学はその研究教育の成果を社会に返していくという使命を持っています。

スペース・デザインコースでは産学協同のプロジェクト

トとして天童木工との間で、在学生、卒業生のチームによる合板の椅子の制作プロジェクトをすすめてきましたが、昨年の研究成果に基づく展覧会につづき天童木工との間でデザインと生産と販売に関する契約が成立するなどの成果が得られました。インダストリアル・デザインコースでも、自動車メーカーなどのデザイナーを招いた実技授業などが活発に展開されています。

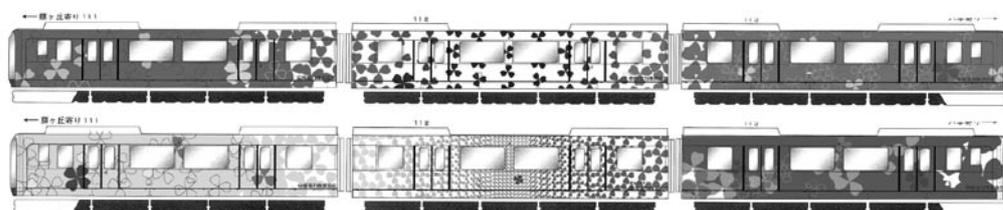
今期学生の対社会的活動もめざましく、日本ジュエリーアート展の26歳以下部門では入選者50名のうち本学クラフトデザイン4年の学生が3人入選しました。

本年から新しくスタートした新コースメディア・コミュニケーションコースの学生は、「Happy Linimo」というテーマの愛知万博にデビューし、藤ヶ丘一八草間を走るリアモーターカー車両のラッピングデザイン・コンペに挑戦しみごと1案が採用されました。学生達のデザインでラッピングされたリニモが1年間走ることにまりました。

先輩達も頑張っています。卒業生で第19期卒業生の山下哲司君はカンヌ国際展でグランプリを獲得、同じく第23期卒業生の相羽佳代子さんは宇野亜喜良賞を、さらに第33期卒業生の棚橋正知君は先年の手塚治虫賞につづき赤塚不二夫賞を獲得するなど、これらは、在学生の励みとなっています。

デザイン学部のある西キャンパスでは、新たなコース増による教育スペース充実のため来年度に向けてのデザイン棟のひとつであるU棟の増築工事も始まりました。

デザイン学部長 溝口 和夫



リニモのラッピングデザイン採択案

人間発達学部

新1年生162名を迎え、2年生と併せて327名で出発した2008年度。

7月末日まで、前期試験。やっと夏季休業を迎えた学生たちは、各種資格取得講座、クラブの合宿・練習、施設でのボランティア活動、海外研修、そして保育所・学童保育所・野外子ども活動をはじめとした各種アルバイトや車校にも精を出しているようです。

夏休みも8月後半になると、1年生は「総合演習」の一環として、保育・教育現場(小学校、幼稚園、保育所、学童保育所、子育て支援センター、施設、フリースクールなど)の見学が始まり、2年生は基礎学力フォローアップ講座の続きが始まります。

2年生までは、「児童期への見通しができる保育者」、「乳幼児期がわかっている小学校教師」を養成したいという本学部の理念から、全員が一般教養科目、小学校、幼稚園、保育所に関する基礎的知識と技術を学びますが、3年生からはそれぞれが希望する進路について、より深く学び、それぞれの採用試験対策も行って行く予定です。

本学は少人数指導制を取っており、学生たちの学習、生活、進路については主にゼミ担当が約20名ずつの学生の相談にのったり、指導したりしています。

1年生は前期が「総合演習」で、昨年は「人間になれない子どもたち」(清川輝基 著)今年「子どもと自然」(河合雅雄 著)を講読。後期が「ゼミナールⅠ」で、各自の学習課題の把握とレポート・小論文の書き方の学習をします。

2年生は年間「ゼミナールⅡ」があり、1年生の間に把握した課題について各自が深めていくことと、ゼミ全体で何か企画し、実行する取り組みをすすめています。(例えば、小学校のキャンプ活動の援助、七夕飾り作りと付属幼稚園児との遊びの会、流しそうめん体験、などを済ましたゼミ、大学祭で担当が育ててきたメダカすくいなどをする予定のゼミ、自分たちで把握した問題意識により脚本をつくって、劇を演じる予定のゼミもあります。)

2年生の保育士資格取得希望者は9月、2月に2週間ずつの「保育園実習」、3月には希望者は「小学校体験学習」(4年生6月に行われる正規の3週間実習とは別に)に取り組みます。

優れた保育・教育現場に触れ、保育・教育の大切さ・面白さを把握し、保育者・教育者になりたいという意欲をしっかりとってほしいものと思っております。

学部としては、8月9日(土)に、柴崎正行氏「これからの保育を考えるー幼稚園教育要領の改訂・保育所保育指針の改定を迎えてー」の特別公開講座を行い、学生はもちろん保育所や幼稚園の現役の先生方の参加も多く、

800名のウイール愛知のホールが満員の盛況でした。

8月には9日間にわたり、本学を当番校として愛知県現任保育士指導者養成研修・中堅保育士研修として34講座を開講、県下より98名の保育士の方々が参加されます。

9月には短大保育科卒業生の再学習講座、10月には地域の親子向けの子育て支援講座、12月には文化創造セミナー(今回は「NHKお母さんと一緒」の瀬戸口清文氏の運動遊びの講習会)を実施し、内外に保育者・教育者養成校としての使命を着実に果たしていく所存です。

学生たちも、自主的なクラブを沢山立ち上げて、技術の向上や社会とのふれあいを求めているボランティア活動など、活発に自己形成を進めている姿を見るのはうれしいことです。

これまでの和太鼓部、リズムダンス部、子ども文化クラブ、ワンダーフォーゲル部、フットサル部に加え、運動系、ダンス系、自然系のクラブが沢山できています。例えば「自然とくらしを楽しむ会」は、長野県木曾郡木祖村にある本学セミナーハウスで2泊3日、23名の合宿を行い、そばうち、溪流釣り、バーベキュー、畑作業と昼食作り、川遊び、草花遊び、ほうばずしづくり、保育所での遊びの会など、自然・生活体験を増やしました。4年間の学生時代、消費生活、テレビ・ビデオ・ゲーム・パソコン・携帯等メディア漬けの生活に抗し、体と五官をフルに使って暮らす喜びを子どもたちに取り戻せるような力を養ってほしいものと願っています。

子ども発達学科長 野原 由利子



2008年度 入学式



2008年度名古屋芸術大学入学式が、桜の咲き誇る4月5日(土)、本学西キャンパス体育館で行われました。午前10時から始まった式典では、

開式のことばに引き続き、榊 達雄学長により2008年度の学部入学生および大学院修士課程入学生全員の入学が許可されました。続いて行われた学長式辞で、榊学長は、「名古屋芸術大学に学ぶ学生として芸術や真理の探求をとおして、理性と感性が調和した豊かな人間性を身に付けてもらいたい。大学における勉学では、受身の姿勢ではなく、問題意識を持ち、自主的・積極的に学習する姿勢が不可欠である。強固な学習意欲を持ち、積極的に行動するとき、芸術や学問に対する喜びも感ずることができる。」と入学生を激励されました。また、「皆さんは、学生であると同時に社会人でもある。日本の社会で、そして、世界で起きていることに目の向け

てほしい。環境、エネルギー、食料、人口、医療などの問題は、世界全体が直面している問題である。将来を希望の持てる平和な社会にできるかどうかは皆さんの双肩にかかっている。」と熱いメッセージを送られました。

続いて、入学生代表による宣誓が行われました。音楽・美術・デザイン・人間発達の4学部を代表して、デザイン学部デザイン学科の萩野豪俊君が、また、大学院入学生を代表して、大学院音楽研究科音楽専攻の岩田亜衣さんが力強い宣誓を行いました。この後、式典は、本学法人理事長の挨拶、来賓の北名古屋市長による祝辞、本学教員役職者の紹介などがあり、閉式のことばで滞りなく終了しました。

式典終了後は、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラによる歓迎演奏が行われました。音楽学部竹内雅一教授の指揮で、曲目は、フランツ・フォン・スッペ作曲の喜歌劇「ウィーンの朝、昼、晩」序曲でした。新入生とのご家族を歓迎するオーケストラのサウンドが体育館に響き、荘厳な雰囲気の中で入学式が終了しました。



大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号	
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代)	
休学・退学について 成績について 証明書発行について 課外活動・大学祭等について 教員免許・学芸員資格について 住所変更等について その他学生生活全般について	教務学生課		
就職について 資格取得講座について アルバイトについて	就職課		
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課		
交換留学について	国際交流センター (芸術文化交流室)		
生涯学習講座について	生涯学習センター (芸術文化交流室)		
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課		東キャンパス 0568-24-5141 (直通)
美術学部・デザイン学部の主催する 展覧会について	芸術文化交流室		西キャンパス 0568-24-0325 (代)
アート&デザインセンターについて	アート&デザインセンター (芸術文化交流室)		西キャンパス 0568-24-0325 (代)
後援会について	芸術文化交流室		

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、以上の理由から、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。

学生授業評価アンケート結果

この調査の目的は、本学在学生在が、受講した授業をどのように評価しているかについてのアンケートであり、各教員の今後の教育改善資料としてまた大学全体の改革の基礎資料でもあります。さて今年は新たに人間発達学部も加えての4学部での実施となりました。新学部の教員からは、学生が初めて体験する大学の授業評価への高い関心度が伺えたとの報告を受けました。そのことは実際上の数字にも表れています。あくまでも総数ですが人間発達学部のある東キャンパスのアンケート回収率は昨年度と比べてまして特に後期では23パーセント向上しています。全設問の全体評価は4学部とも概ね良好でありました。勿論項目によっては実技の評価は高いが講義の評価が低いとかありますが、全項目とも評価が高まっており各教員の努力が伺えたと思います。今後も一層の授業改善に向けて努力していきます。

実施期間について（前期と後期の2回実施）

※前期は2007年7月2日(月)～7月14日(土)までの2週間、半期開講科目のみ実施。

※後期は2008年1月7日(月)～1月23日(水)までの2週間、通年科目と後期開講の全科目について実施。

調査項目について

- 設問1 「既学習感・達成度」（学生自身の「学び感」（習得感）の度合い）
- 設問2 「授業構造」（授業の組み立て）
- 設問3 「授業内容」（授業の分かりやすさ）
- 設問4 「授業内容」（授業の中身とシラバスの一致度）
- 設問5 「授業運営・教員」（授業に対する担当教員の取り組み方・姿勢）
- 設問6 「総合評価」（他の学生に推薦できる授業か）
- 設問7 「授業内容」（授業の意味・重要性の理解）
- 設問8 「授業への学生自身の取り組みかた」（学生自身の学習努力について）
- 設問9 「総合評価」（授業全般に対する総合評価）

本調査の質問表は、学生が率直に回答できるように無記名としてあります。また質問表を簡素化したり、回答の度合いを5段階評価のマークシート方式を採用して答えやすさに努めたり、授業内での実施を前提にするなど、学生・教員・授業への負担が少ないように最大限の配慮を試みました。各学部の回収総数および回収率は次の通りでした。

	学 部	配布総数(枚)	回収総数(枚)	回収率
前 期	音楽学部・人間発達学部	4,591	3,265	71.1%
	美術学部・デザイン学部	11,840	4,681	39.5%
後 期	音楽学部・人間発達学部	7,695	5,406	70.3%
	美術学部・デザイン学部	11,470	4,275	37.3%

副学長 澤脇 達晴

本調査結果は、本学ホームページ「ニュース・トピックスキャンパス情報」に掲載中です。
<http://www.nua.ac.jp/itdir/j-hyouka/>

■2008年度 学生数

<学 部>

2008年5月1日現在

学 部	学 科	1年			2年			3年			4年			合計
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	
音 楽 学 部	演 奏 学 科	9	70	79	10	75	85	14	91	105	17	96	113	382
	音楽文化創造学科	42	69	111	38	67	105	30	75	105	39	54	93	414
	音楽学部小合計	51	139	190	48	142	190	44	166	210	56	150	206	796
美 術 学 部	美 術 学 科	19	100	119	/	/	/	/	/	/	/	/	/	119
	絵画科 日本画	0	1	1	2	28	30	4	27	31	3	31	34	96
	絵画科 洋画	1	0	1	17	37	54	16	42	58	20	44	64	177
	造 形 科	0	0	0	12	15	27	9	20	29	13	10	23	79
	美術文化学科	0	0	0	4	9	13	1	9	10	5	4	9	32
	美術学部小合計	20	101	121	35	89	124	30	98	128	41	89	130	503
デザイン学部	デザイン学科	53	127	180	51	151	202	42	135	177	67	125	192	751
	デザイン学部小合計	53	127	180	51	151	202	42	135	177	67	125	192	751
人間発達学部	子ども発達学科	32	130	162	50	117	167	/	/	/	/	/	/	329
	子ども発達学科小合計	82	130	162	50	117	167	/	/	/	/	/	/	329
学 部 生 合 計		206	497	653	184	499	683	116	399	515	164	364	528	2,379

<大学院>

研 究 科	1年			2年			合計
	男	女	計	男	女	計	
美 術 研 究 科	4	8	12	7	15	22	34
デザイン研究科	0	6	6	3	5	8	14
音 楽 研 究 科	3	11	14	5	6	11	25
大 学 院 生 合 計	7	25	32	15	26	41	73

総学生数 2,452人

2008年度 年間行事予定表【音楽学部】

月	日	曜日	前期行事予定
4月	1	火	2~4年生オリエンテーション/健康診断
	2	水	健康診断
	3	木	新入生オリエンテーション/健康診断
	4	金	
	5	土	入学式
	7	月	実技オリエンテーション
	8	火	
	9	水	
	10	木	授業開始(オリエンテーションを含む)
	12	土	新入生歓迎会 午後~
	14	月	履修登録訂正期間
	17	木	
	18	金	履修登録訂正締切 16時迄
	5月	29	火
30		水	臨時休業
1		木	開学記念日
2		金	臨時休業
3		土	憲法記念日
4		日	みどりの日
6月	5	月	こどもの日 授業実施日
	6	火	振替休日 授業実施日
	14	土	オープンキャンパス(予定)
	16	月	前期実技試験曲目提出期間
	21	土	
	23	月	
7月	27	金	前期実技試験曲目提出締切 16時迄
	19	土	実技試験(予定)
	20	日	
	21	月	海の日
	24	木	前期学科試験期間
	25	金	
	26	土	実技試験(予定)
	28	月	
	29	火	
	30	水	前期授業終了
	31	木	前期試験予備日
8月	1	金	夏季休業開始
	3	日	夏期音楽講習会
	4	月	前期集中講義期間
	5	火	
	6	水	
	7	木	
	8	金	
	11	月	一斉休業
9月	2	火	前期追再試験期間
	5	金	
	9	火	追再試成績伝票提出締切(教員)
	11	木	前期追再試験成績発表 13時~
	14	日	AO入試(受験診断)B
	15	月	敬老の日
	17	水	後期オリエンテーション
10月	18	木	
	19	金	
	21	日	夏期休業終了
	22	月	後期授業開始
	23	火	秋分の日

月	日	曜日	後期行事予定
9月	24	水	臨時休業
	25	木	履修登録訂正期間
	26	金	
	27	土	オープンキャンパス
	29	月	
	30	火	履修登録訂正締切 16時迄
10月	5	日	AO入試
	13	月	体育の日
	23	木	芸大祭準備 授業なし
	24	金	芸大祭
	25	土	
	26	日	芸大祭後片づけ
11月	3	月	文化の日
	8	土	推薦入試
	9	日	指定校推薦入試
	17	月	後期実技試験曲目提出
	22	土	
	23	日	学院創立記念日 勤労感謝の日
12月	24	月	振替休日 授業実施日
	28	金	後期実技試験曲目提出締切 16時迄
	6	土	大学院A日程入試
	23	火	天皇誕生日
	24	水	冬季休業開始 後期集中講義期間 冬期音楽講習会
	26	金	
1月	27	土	
	29	月	冬季一斉休業
	1	木	元旦
	2	金	
	3	土	
	4	日	冬季休業終了
2月	5	月	後期授業再開
	12	月	成人の日
	17	土	後期実技試験(予定)
	18	日	
	20	火	後期学科試験期間
	23	金	
	24	土	実技試験(予定)
	25	日	
	26	月	後期授業終了
	27	火	後期試験予備日
	28	水	集中講義
3月	2	月	
	3	火	
	5	木	A日程入試
	6	金	A日程・特待・編入
	10	火	成績伝票提出締切(教員)
	11	水	建国記念日
	13	金	後期試験成績発表 13時~
	17	火	後期追再試験期間
	20	金	
	24	火	追再試成績伝票提出締切(教員)
	25	水	後期追再試験成績発表 13時~
4	水	卒業判定会議	
11	水	進級判定会議	
20	金	春分の日	
23	月	春季休業開始	
24	火	卒業式	
25	水	B日程入試 (院)B日程入試	
26	木	新2~4年生オリエンテーション(予定)	
27	金		
30	月		
31	火		

2008年度 年間行事予定表【美術学部・デザイン学部】

月	日	曜日	前期行事予定	
4月	4	金	新入生オリエンテーション	
	5	土	入学式	
	7	月	オリエンテーション 新入生健康診断	
	8	火	↓ 履修登録締切	
	9	水		
	10	木	授業開始	
	12	土	新入生歓迎会	
	14	月		
	17	木		
	5月	29	火	休日 昭和の日
30		水	休日 臨時休業	
1		木	休日 開学記念日	
2		金	休日 臨時休業	
3		土	休日 憲法記念日	
4		日	休日 みどりの日	
5		月	授業実施日 こどもの日	
6		火	授業実施日 振替休日	
6月		15	日	オープンキャンパス 入門編
		19	土	AO入試スクーリング
7月	20	日	オープンキャンパス 体験編	
	21	月	一日芸大生 海の日	
	24	木	前期試験期間 あいち子ども芸術大学	
	27	日		
	30	水		
	31	木	試験予備日	
	8月	1	金	夏季休業期間開始
2		土	AO入試スクーリング	
4		月	前期集中講義期間	
8		金		
20		水		
27		水	13時より前期試験成績発表	
9月	2	火	前期追再試験期間	
	5	金		
	6	土		
	9	火	追再試成績伝票提出締切(教員)	
	11	木	13時より前期追再試験成績発表	
	14	日	オープンキャンパス 進学編	
	15	月	休日 敬老の日	
	19	金	後期オリエンテーション	
	21	日	夏季休業期間終了	
	22	月	後期授業開始	
23	火	休日 秋分の日		
24	水	休日 臨時休業		
25	木	履修登録訂正期間		
26	金			
			履修登録訂正締切 13:00締切	

月	日	曜日	後期行事予定
10月	13	月	休日 体育の日
	23	木	芸大祭準備日(全日休講)
	24	金	芸大祭
	25	土	
	26	日	芸大祭後片付け
11月	2	日	推薦・社会人入試
	3	月	休日 文化の日
	9	日	大学院Ⅰ期・3年編入入試及び転科転コース試験
	22	土	休日 学院創立記念日
	23	日	休日 勤労感謝の日
	24	月	授業実施日 振替休日
12月	13	土	地域入試(浜松)
	22	月	後期授業終了
	23	火	休日 天皇誕生日 冬季休業期間開始
	24	水	集中講義期間
	26	金	
	29	月	
	31	水	
1月	1	木	元旦 冬季一斉休業期間
	4	日	↓
	5	月	後期授業再開
	12	月	休日 成人の日
	20	火	後期試験期間
	26	月	
	27	火	
	28	水	後期集中講義期間
	3	火	
	2月	5	木
6		金	
10		火	成績伝票提出締切(教員)
11		水	休日 建国記念日
13		金	13時より後期学科試験成績発表
17		火	後期追再試験期間
20		金	
21		土	
24		火	追再試成績伝票提出締切(教員)、研究・研修生入試
25		水	13時より後期追再試験成績発表
3月	4	水	卒業判定会議
	11	水	進級判定会議
	17	火	B日程入試
	20	金	休日 春分の日
	23	月	春季休業開始
	24	火	卒業式
	30	月	新2~4年生オリエンテーション実施予定
31	火		

2008年度 年間行事予定表【人間発達学部】

月	日	曜日	前期行事予定	
4月	1	火	2年オリエンテーション／健康診断	
	2	水	↓ 健康診断	
	3	木	新入生オリエンテーション／健康診断	
	4	金	↓ 健康診断	
	5	土	入学式	
	7	月	オリエンテーション	
	8	火	↓ 新入生オリエンテーション合宿	
	9	水	↓	
	10	木	授業開始	
	12	土	新入生歓迎会 午後～	
	14	月	履修登録訂正期間	
	17	木	↓	
	18	金	履修登録訂正締切 16時迄	
	29	火	昭和の日	
30	水	臨時休業(こどもの日の代休)		
5月	1	木	開学記念日	
	2	金	臨時休業(5月6日振替休日の代休)	
	3	土	憲法記念日	
	4	日	みどりの日	
	5	月	こどもの日 授業実施日	
	6	火	振替休日 授業実施日	
7月	20	日	オープンキャンパス	
	21	月	海の日	
	24	木	前期学科試験期間及び前期授業最終週	
	25	金	↓	
	26	土	↓	
	28	月	↓	
	29	火	↓	
	30	水	↓ 前期授業終了	
	31	木	前期試験予備日	
	8月	1	金	夏季休業開始
		4	月	補講・集中講義
8		金	↓	
9		土	特別公開講座(午後～)ウィルあいち	
11		月	一斉休業	
15		金	↓	
20		水	成績伝票提出締切(教員)	
23		土	オープンキャンパス	
27		水	前期試験成績発表 13時～	
9月		1	月	後期オリエンテーション 1・2年
	2	火	前期追再試験期間	
	5	金	↓	
	8	月	保育実習Ⅰ(2年生)(9/8～9/20)	
	9	火	追再試成績伝票提出締切(教員)	
	11	木	前期追再試成績発表 13時～	
	15	月	敬老の日	
	20	土	夏季休業終了	
	21	日	オープンキャンパス	
	22	月	後期授業開始	
	23	火	秋分の日	

月	日	曜日	後期行事予定	
9月	24	水	臨時休業(11月24日振替休日の代休)	
	25	木	履修登録訂正期間	
	29	月	↓	
	30	火	履修登録訂正締切 16時迄	
10月	13	月	体育の日	
	23	木	芸大祭準備 全学全日休講	
	24	金	芸大祭	
	25	土	↓	
	26	日	芸大祭後片づけ	
	11月	1	土	推薦A入試・3年編入入試
2		日	推薦A入試	
3		月	文化の日	
22		土	学院創立記念 全学全日休業	
23		日	勤労感謝の日	
24		月	振替休日 授業実施日	
12月		7	日	推薦B入試
		23	火	天皇誕生日
	24	水	冬季休業開始 補講・集中講義期間	
	25	木	↓	
	26	金	↓	
	29	月	冬季一斉休業	
1月	1	木	元旦	
	2	金	↓	
	3	土	↓	
	4	日	冬季休業終了	
	5	月	後期授業再開	
	12	月	成人の日	
	20	火	後期学科試験期間及び後期授業最終週	
	23	金	↓	
	26	月	↓ 後期授業終了	
	27	火	後期試験予備日	
	28	水	補講・集中講義期間	
	31	土	一般A入試	
	2月	1	日	↓
2		月	↓	
3		火	↓	
10		火	成績伝票提出締切(教員)	
11		水	建国記念日	
13		金	後期試験成績発表 13時～	
16		月	保育実習Ⅱ(2年生)(2/16～2/28)	
17		火	後期追再試期間(1年生)	
20		金	↓	
24		火	追再試成績伝票締切(教員)	
25		水	後期追再試成績発表(1年生) 13時～	
3月	4	水	後期追再試期間(2年生)	
	5	木	↓	
	6	金	↓	
	9	月	↓	
	10	火	↓	
	11	水	進級判定会議	
	14	土	一般B入試	
	16	月	後期追再試成績発表(2年生) 13時～	
	20	金	春分の日	
	23	月	春季休業開始	
24	火	卒業式		

就 職 セ ミ ナ ー の 紹 介



学生一人ひとりの将来の夢や希望を尊重し、教員と連携をとりながら全員が希望通りの就職・進学ができるように支援を行っています。

また、社会情勢にあわせた就職活動の基本的な事項の周知と意識を高めることを目的とし、きめ細やかな就職支援についての対策を両大学の委員会とともに検討し実施しています。気軽に利用してください。

※就職課では学年にかかわらず将来の進路について相談をすることができます。

2008年度 美術学部・デザイン学部 就職ガイダンス等 予定表

月	日	内 容	対 象
4月	14～	第1回 就職支援・資格取得講座 受付	講座受講希望者
	15	教員採用試験説明会	希望者
5月	22	インターンシップに関するオリエンテーション	インターンシップ希望者
	26～	インターンシップ参加申込受付	インターンシップ希望者
6月	2～	第2回 就職支援・資格取得講座 受付	講座受講希望者
	12	就職ガイダンス(就職活動の流れ・進路調査①)	美術学部・デザイン学部
	18	就職ガイダンス(就職活動の流れ・進路調査②)	美術学部・デザイン学部
7月	10・11	就職ガイダンス(就職適性・自己分析テストの実施)	美術学部・デザイン学部
	17	インターンシップ事前研修(ビジネスマナー研修)	インターンシップ参加者
8月	—	各種就職支援講座・資格取得講座の実施	講座受講者
	—	インターンシップの実施	インターンシップ参加者
	25	就職ガイダンス(就職活動の進め方・就職ナビの活用)	美術学部・デザイン学部
9月	—	インターンシップ事後研修	インターンシップ参加者
	9	就職ガイダンス(エントリーシートの書き方、就職活動におけるマナー・ルール)	美術学部・デザイン学部
	16	クリエイティブ系就職ガイダンス(クリエイティブを活かして働く)	美術学部・デザイン学部
	30・31	就職ガイダンス(エントリーシート攻略テスト)	美術学部・デザイン学部
10月	6	就職ガイダンス(適性試験対策)	美術学部・デザイン学部
	14	クリエイティブ系就職ガイダンス(ポートフォリオのまとめ方)	美術学部・デザイン学部
	20	就職ガイダンス(直接試験対策)	美術学部・デザイン学部
11月	8～	第3回 就職支援・資格取得講座 受付	講座受講希望者
	4・5	就職ガイダンス(SPI模擬試験)	美術学部・デザイン学部
12月	—	各種就職支援講座・資格取得講座の実施	講座受講者
	—	就職活動オリエンテーション(新4年生)	美術学部・デザイン学部
1月～3月	—	就職活動オリエンテーション(新3年生)	美術学部・デザイン学部

※ 予定は変更・追加になる場合があります。日時は掲示等で確認してください。
 ※ 各種就職支援講座・資格取得講座は上表日程以外でも実施予定の講座があります。

2008年度 就職・進学対策行事予定表

音楽学部3年生

月	日	曜	限	教室	講座内容	対象
4	24	木	4	11-101	カワイ音楽講師採用・グレード試験学内説明会	音楽学部
5	15	木	4	1-701	教員採用試験説明会	音楽学部3・4年
	22	木	4	11-201	ヤマハグレード試験・システム講師・PMS講師学内説明会	音楽学部
6	5	木	4	1-701	第1回就職ガイダンス（卒業後の進路について）	音楽学部3年
	5	木	5	1-701	音楽映像関係企業講演会	音楽学部3・4年
	11	水	5	1-405	自己分析検査（CAREER APPROACH） ※いずれか1日	音楽学部3年
	13	金	5	1-405	自己分析検査（CAREER APPROACH） ※いずれか1日	音楽学部3年
	19	木	4	1-701	第2回就職ガイダンス～なりたい自分と社会とのつながり～	音楽学部3年
	26	木	4	1-701	第3回就職ガイダンス～社会を知る～	音楽学部3年
7	3	木	4	1-405	第4回就職ガイダンス（自己表現講座）	音楽学部3年
	10	木	5	1-401	愛知県警察・警察音楽隊説明会	音楽学部3・4年
	16	水	5	1-405	就職模擬試験No.1（一般常識①） ※いずれか1日	音楽学部3年
	17	木	4	1-405	第5回就職ガイダンス（自己分析 ① CAREER APPROACH 解説）	音楽学部3年
	18	金	5	1-405	就職模擬試験No.1（一般常識①） ※いずれか1日	音楽学部3年
	24	木	4	1-405	第6回就職ガイダンス（自己分析②）	音楽学部3年
9	25	木	4	1-701	第7回就職ガイダンス～就職活動のすずめかた・就職試験とは～	音楽学部3年
10	1	水	5	1-405	就職模擬試験No.2（一般常識②） ※いずれか1日	音楽学部3年
	2	木	4	1-405	第8回就職ガイダンス（作文対策講座①）	音楽学部3年
	3	金	5	1-405	就職模擬試験No.2（一般常識②） ※いずれか1日	音楽学部3年
	9	木	4	1-405	第9回就職ガイダンス～業界・職業研究～	音楽学部3年
	16	木	4	1-405	第10回就職ガイダンス（音楽関係業界紹介 音楽講師を除く）	音楽学部3年
	30	水	4	1-405	公務員採用試験説明会（行政職・警察官・消防士）	音楽学部3年
11	6	木	4	1-405	第11回就職ガイダンス（作文対策講座②）	音楽学部3年
	13	木	4	1-405	第12回就職ガイダンス（マナー講座 服装・話し方）	音楽学部3年
	20	木	4	1-405	第13回就職ガイダンス（履歴書・エントリーシートの書き方①）	音楽学部3年
	27	木	4	1-405	第14回就職ガイダンス（履歴書・エントリーシートの書き方②）	音楽学部3年
12	3	水	5	1-405	就職模擬試験（SPI試験） ※いずれか1日	音楽学部3年
	4	木	4	1-405	第15回就職ガイダンス（作文対策講座③）	音楽学部3年
	5	金	5	1-405	就職模擬試験（SPI試験） ※いずれか1日	音楽学部3年
	11	木	4・5	1-405 他	第16回就職ガイダンス～面接対策講座～	音楽学部3年
	11	木	11～15時	1-7 F	就職活動用写真撮影（いずれか1日）	音楽学部3年
	12	金	11～15時	1-7 F	就職活動用写真撮影（いずれか1日）	音楽学部3年
	18	木	4	1-405	第17回就職ガイダンス（手紙の書き方講座）	音楽学部3年
1	15	木	4	1-701	第18回就職ガイダンス（春休みの就職活動）	音楽学部3年
	後日指定	—	—	自宅	就職模擬試験（第1回教員採用試験模擬試験）	音楽学部3年

※ 上記の講座内容は、変更・追加することがあります。日時・教室変更等に注意してください。

音楽学部4年

月	日	曜	限	教室	講座内容	対象	備考	学外行事(説明会)
4	1～17	月～木	—	自宅	学内就職模擬試験(第2回教員採用試験模擬試験)	音楽学部4年	中・高教員希望者	会社説明会・セミナー・企業展(以降随時)
	14～21	月～月	—	自宅	論作文添削①	音楽学部4年	希望者のみ	
	17	木	11～15時	1-7 F	就職用写真撮影 ※いずれか1日	音楽学部4年	希望者のみ	
	18	金	11～15時	1-7 F	就職用写真撮影 ※いずれか1日	音楽学部4年	希望者のみ	
	24	木	4	11-101	カワイ音楽講師採用・グレード試験学内説明会	音楽学部	全学年対象	
5	5～12	月～月	—	自宅	論作文添削②	音楽学部4年	希望者のみ	教員採用試験 要項配布および受付開始
	5～15	月～木	—	自宅	就職模擬試験（第3回教員採用試験模擬試験）	音楽学部4年	中・高教員希望者	公務員 要項配布および受付開始
	15	木	4	1-405 他	第10回就職ガイダンス(面接対策講座No. 2)	音楽学部4年	全員	5/29 アート&クリエイティブ(音楽系企業説明会)東京
			4	1-701	教員採用試験学内説明会	音楽学部3・4年	中・高教員希望者	
			5	1-701	愛知県教員採用試験説明会	音楽学部4年	該当者のみ	
	22	木	4	11-201	ヤマハグレード試験・システム講師・PMS講師学内説明会	音楽学部	全学年対象	
29	木	4	1-405	第11回就職ガイダンス（マナー講座No. 2 総まとめ）	音楽学部4年	全員		
6	5	木	5	1-701	音楽映像関係企業講演会	音楽学部3・4年	希望者のみ	6/6 アート&クリエイティブ(音楽系企業説明会)大阪
	23～30	月～月	—	自宅	論作文添削③	音楽学部4年	希望者のみ	
7	7～16	月～水	—	自宅	論作文添削④	音楽学部4年	希望者のみ	中下旬 保育士試験準備講習会
	10	木	4	1-401	第12回夏期休業期間中の就職活動について	音楽学部4年	全員	7/19 教員採用試験(愛知・岐阜・三重等)
		5	1-401	愛知県警察・警察音楽隊説明会	音楽学部3・4年	希望者のみ		
8								保育士試験
								公務員採用試験
11	後日指定							下旬 東京 アート&クリエイティブ(音楽系企業説明会)

※ 上記講座内容は変更・追加することがあります。教室変更等に注意してください。

先輩の活躍



きっかけ

1999年度 美術学部
デザイン科スペースデザインコース卒業
岡田 心

大学卒業後、なんとなく就職しなんとなくデザインをする日々が続いていました。

何を目標とするわけでもなく、ただただなんとなく。

一見華やかに見えるデザイナーという世界、それとは無関係のような自分という現実。光のあたらない誤解の日に、いつの間にかデザインを楽しめなくなっていました。

そんなある日、事件？が起こりました。

予備校、大学と共に学んできた友人が日本でも有数のデザインコンペティションにて準グランプリを獲得したのです。

そのような事は自分には関係のない、一部の天才？エリート？だけの、メディアの中だけの事だと思っていました。

それが私の隣へ突然現れたのです。

隣に当たる眩しいスポットライトに羨ましさを感じ、同時に目を強引に抉じ開けられました。

いつしか自分で自分自身の可能性の目を閉じていたのです。

目を開くといままで見えなかった物事が良く見えるようになり、毎日必死に、楽しくデザインできるようになりました。

そして、2007年。私の目を覚まさせてくれたあのコンペ、「富山プロダクトデザインコンペティション」に出品。

結果、グランプリの「とやまデザイン賞」受賞。コンペ受賞から大ヒット商品が生まれ、スターデザイナーへと急に人生が変わる。という時代ではありません。ただ、私の場合は可能性、忘れていた楽しさを気付かせてくれるきっかけにはなりました。

東京の大学を卒業していなくても、一流企業に勤めていなくても、平等ではないかもしれないがやってくるチャンス。そのとき、「光のあたらない」と誤解していた場所、そこで過ごした日々のおかげで表現する能力、技術、知識がいつの間にか身に付いていた事を認識するはず。

いまは日々楽しくデザインができています。

やっとな、再スタートです。



自分磨き

2007年度 音楽学部器楽科ピアノコース
ピアノ演奏選択コース卒業
志知 恵子

4月から今日まで、あつという間の日々でした。正直、「仕事」をするということがこんなにも責任のいることだったとは去年の自分は想像すらしていませんでした。現在私は、中学の音楽教員として忙しい毎日を送っています。4月当初は毎日が初めてのことばかりで、何をしたいかも分からず、ただ必死に一日一日を過ごしていました。今でもそれはさほど変わりませんが、しかしその中で教師になって分かったことがあります。

一つは、教師とは教えるだけではなく、生徒に教え教えられ、共に成長していくものだという事。たとえば音楽の授業一つとっても本当に教えられることばかりで「こうすると生徒たちはこんな反応をするんだ。」とか「自分の言ったこと、やったことにこんなに直接影響してくるんだ。」など、毎日が驚きと反省、そして勉強の日々です。子どもたちは素直です。その分、自分のしたことに責任をもってやらなければいけません。それを教

えてくれたのは子どもたちでした。

そしてもう一つ、教師に限らず人は、たくさんの人に支えられて生きているんだということ。大袈裟かもしれませんが、それほどにこの数ヶ月間、私はたくさんの人に支えられて毎日を過ごしてきました。今、音楽の教員は校内で私一人だけなので、音楽の授業以外にも、委員会、部活、合唱交流会の運営など音楽に関わることは全て私が担当しています。

当然、新任の私は全てにおいて上手くできず、仕事から逃げ出したいくなり、朝が来るのが怖いと思うこともありましたが、しかし自分がこうして今でも仕事を続けているのは、周りの先生方の温かいご支援があったからです。悩んでいるときに手を差し伸べ、一緒に悩んでくれた先生方には本当に感謝してもし切れないほどです。だからこそ自分は、教師という立場に責任と誇りをもってこれからも努めていきたいと思っています。そして生徒たちと共にこれからも楽しく音楽を学んでいきたいです。



美術の無い国

昭和54年度 美術学部彫刻科卒業

コンセプトスペース/R2 AIS 主宰

福田 篤夫

「果たせるかな日本の国民に“美術”は必要ですか？」これが私には一番知りたい事なんです。平川典俊氏の「社会の窓」の中で私はこう話をしました。あれから既に10数年が経ちながら今も私は同じ疑問に日々ぶつかっています。もっぱら美術大学に代表される専門家養成機関は、未だ“もの作り”の方法を教える事に躍起に



私の作品「トラヴェリングミュージアム」の引っ越しの図。(デュッセルドルフのパークハウスからボルドーのコレクテックスギャラリーに”引っ越し”しました。まるで夜逃げの様。)今年の夏はエジンバラ~ティルブルグ~デュッセルドルフ~ヴァドワイスと引っ越ししながら展示します。

なる事はあっても、“こと作り”に意識を馳せる事はない様です。ようするに「アーティストへの路」は教えないと言う寸法です。

コンセプトスペースは、10畳長屋式アパートを利用して27年前に開設されました。これまでに110回を超える現代美術の未曾有の展覧会をやってこれたかな。この活動は非営利のアートスペースとして、各地のアートファンから熱いエールを頂いています。

一方では仲間とたちあげたAIS(アートインスティテュート渋谷)は美大卒業生のほとんどが「無いじゃないか!？」と途方にくれる“アーティストへの路”に門戸を開き、eca(エジンバラ芸術大学院)とAISは提携し文化の交流もはじまろうとしています。このAISの学生は成績もよく、各種のコンペで賞を総なめしています。すごい連中です。日本は美術においては“地方”ですからそこで一番になっても意味はありません。「異国のお前さん。相撲(美術)でグランドチャンピオンになりたけりゃ日本に来て相撲とって横綱になんきや」。美術の横綱って何処行って挑戦すれば良いんですかね。そうそう、デュッセルドルフkunstakademieで授業したとき韓国から来た大学院生徒から教えてもらいました。「授業料1年間70ユーロ、生活費1ヶ月600ユーロ。公共交通費、全て無料なんですこの学校。日本はどうですか？」ありていに言えば「ドイツもこいつも!!」です。ハイ

*AISの詳しい情報をご希望の方は

hukuda3323@ybb.ne.jp までご一報下さい。

勉強の毎日です

2007年度 音楽学部音楽文化応用学科

サウンド・メディア選択コース卒業

飯山 隆介

私は株式会社イメージスタジオ・イチマルキュウという会社のポストプロダクション事業部で営業として勤務しています。

ポストプロダクションとは映像制作における撮影後の作業の総称で、その作業を行う会社も同様の名称で呼びます。もっと噛み砕いて言えば、撮影まで終わった映像の素材を、コンテを元に編集・MAをし、完成させる作業のことです。当社は特にCM制作を主としています。

学生時代、音楽に関わる仕事がしたいという反面営業にも興味があり、その願いを両方叶えてくれたのがこの会社です。大学のスタジオと類似したMA室に見覚えのあるミキサー。また、見たことも無い凄そうな機器が並ぶ編集室。この会社の存在を知ると同時にここを受けようと即決していました。

勤めて約半年ですが、まだまだ右も左も分からず勉強の毎日です。MAに関しては大学で学んだ知識があると

高を括っていましたが、やはりそこはプロの現場。知れば知る程分からない部分が露呈し、自分の未熟さを痛感しています。また編集に関してはまるで素人なので、全一からの勉強です。調べたり先輩に相談したりするなどして必死に知識を詰め込んでいます。

しかし私は技術者ではなくあくまで営業です。知識だけあってもそれを営業の現場で生かせなければ意味がありません。わずか半年の間に多くの方と会い、今や頂いた名刺も数え切れない程になりました。ポストプロの営業は一度仕事を頂いた方とはそれっきり、ではありません。その後長いお付き合いになる可能性が高く、むしろそうなるように活動していかなければなりません。その為しっかりと覚えておく必要があります。

最近はずいぶん担当の仕事を持てるようになり、四苦八苦しながらも充実した毎日を送っています。その場から逃げたくなるような状況になることも少なくありませんが、苦勞が多ければ多い程その作品が完成した時の喜びも一入です。それがあからこそ、私は今日もまた元気に会社に向かう事が出来るのです。

(株式会社 イメージスタジオ・イチマルキュウ勤務)

親の想い

きんぎょさんとめだかさんは どうちがう

人間発達学部 子ども発達学科
1年 母 五島 和江

楽しい振り付けと、面白い歌詞、ちょっぴり演歌っぽいメロディー。これが「きんぎょさんとめだかさんはどうちがう」で始まる幼児向けの歌でした。娘が楽しそうに私に教えてくれました。大学生になって、自分の学びたかったことばかりの毎日がとても新鮮で、でも9時から夕方の5時半まである授業と毎回のレポート提出にあたふたしていました。

高校生の頃は、夜9時か10時には寝ていた子が、11時半までアルバイトをし、レポートを書き、今までまったくしたことのないピアノの練習をする日々は大丈夫かなと心配になっていましたが、いつも前向きで休むことなく頑張る姿に名古屋芸術大学に入ってよかったなと思っています。良き友をみつけ切磋琢磨し合っていてほしいと願います。

「きんぎょさんはぶかぶか泳ぐけどめだかさんはちこちこ泳ぐんだよ」可愛い幼児たちも一人一人みんな違うなんて当たり前なのになかなか先生は違いをみて良いといってくれない、そんな想いをもって先生とむきあってきた娘が先生になりたいというのは、なぜなんだろうと思いつつも娘の姿をみると子どもの側にたった先生になってくれると感じられます。

すばらしい名古屋芸術大学の先生がたからたくさん学び、成長するための根をしっかり張って4年間を大切にすごしてほしいと思います。子どもに好かれる先生ではなく子どもを愛せる先生になってほしいと思います。また4年間でぜひ児童文学をたくさん読んでほしいし、自然と向き合っって体を使って思い切り遊んでほしいと願っています。これからもよろしくお願いたします。



母から・・・

人間発達学部 子ども発達学科
1年 母 山下 智春

第一志望の大学に、合格おめでとう！3年前に私立高校に入学した時は、こんなに喜んだかしらね。。。

それは、校則の厳しさに、親子であ然としたわね。中でも、今時携帯電話の所持の禁止については、物騒な世間に何か起きた時にどうしようかと、とまどいましたが、その学校のルールを守ることが大切！だし、携帯電話の普及してない頃と考えればいい！。。物は考えようです。

でも、息子の渋々の通学に続くかなあ〜とドキドキ不安でしたが3ヶ月も経つと住めば都です。お若い先生方を、兄や姉の様に慕い、先輩とも団結してバスケットボール同好会を立ち上げ練習三昧でした。その努力を認めていただき2年生時には、部に昇格です。公式試合に参加できるのを嬉しがった時の笑顔は素晴らしい表情でした。3年では、卒業記念にクラスのオリジナルアルバムを先生までも巻き込んでPCを駆使して製作したりと、高校生活を謳歌していました。

そんな生活でしたから、進学先も先生との相談できめてからの報告をされた状態でしたが、息子にぴったりの大学を進めていただいたと思い合格を祈るばかりでした。きっと3年の夏休みに行った幼稚園への職場体験で保育士への憧れが将来の仕事にしたいという自信をつける体験だったのでしょうか。陽気で人懐っこい園児ではなく、内気で担任にも慣れるのに時間のかかった子が、来たばかりの息子に遊んで欲しくて順番の列に並んでたそうです。それを園長先生も珍しい事と感動されて、息子を褒めてくださりその話をきいてましたから、合格を祈るばかりでした。今は、受験の方法も多様化で息子は推薦合格をいただいたのが10月でしたから、晴れ晴れとしたお正月を迎えた事は二重の喜びでした。

念願の大学生になったのからには、4年間で教育者としての自覚や知識を習得して子供達に愛される保育士を目指してください。母も、その暁にはあなたにキャラ弁を作るのが夢です！！

努力は嘘をつかない！から、コツコツと頑張ってくださいね。

子の想い

大学生になって

音楽学部 音楽文化創造学科 音楽教育コース
1年 佐藤 彩

4月に名古屋芸術大学に入学して、5ヶ月がたちます。入学する前は、新生活への期待や毎日大好きな音楽に囲まれて過ごせるという喜びでいっぱいといった心境でした。そして、入学して実際に名芸で過ごす大学生生活は入学前の期待をはるかに上まわる素晴らしいものでした。いろんなジャンルの音楽、今まで触れたことのなかったいろんな楽器、個性豊かで熱心な先生方、そして自分には無い様々な才能を持っている仲間達。毎日たくさん刺激を受けて大学生活を送っています。

私は音楽学部で音楽教育を勉強しています。将来、高等学校の音楽の教員になることを目指して学んでいます。今まで知らなかった民族楽器に実際に触れながら学んだり、授業の一場で合唱曲紹介し合い、みんなで歌ったりと、実際に体で感じながら学ぶ授業もあって楽しんで学んでいます。

将来、人に教える立場である教員という職に就くためには、人の何倍もの知識がないと無理だと思います。なので、今、名古屋芸術大学で得られるたくさんの刺激を少しでも多く吸収して、早く自分のものにできるよう頑張りたいです。また、音楽教育コースの先輩方と交流する機会もありました。歌うこと一つにしても1年生と先輩方の差は歴然です。1年、2年後には私も先輩方のようになれるのかな？と不安にもなりますが、様々なことに挑戦し、たくさん経験を積み、立派な社会人そして立派な教員になれるよう、頑張っていきたいと思っています。

大学と出会い

人間発達学部 子ども発達学科
1年 長尾 ひとみ

私は幼い頃、とても恥ずかしがり屋でした。そんな私が今、保育士を目指しているのには、いろんな出会いがあったおかげだと感謝しています。

まず、小学2年生の夏に友達に誘われて全国版の子ども会のようなキャンプに参加しました。そこでは、教師でも、親でもない「リーダー」さんがお世話してくれました。「リーダー」さんは、中学生から社会人までの人で構成されていました。子どもたちの意見を尊重して話し合いをし計画を立て実行するという楽しい会でした。

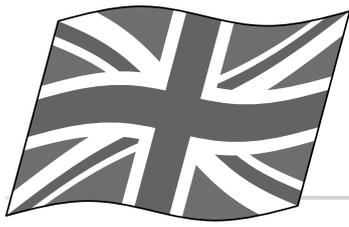
それから毎年参加するうちに中学2年生で「リーダー」になる研修を受けることにしたのです。そして、今度は自分が「リーダー」として子どもたちをお世話する立場になり大変な事や辛い事もありましたが、私が一番夢中になれるかけがえのない存在になりました。

そんなことから将来の職業を考える時に頭に浮かんだのが「保育士」だったのです。毎年出会う子どもたち、リーダー仲間との関わりの中でたくさんの事を勉強し、自分を成長させてもらったと思います。名古屋芸術大学は、芸術大学として有名でしたが、ちょうど受験する1年前に子ども発達学部が新設され感性あふれる芸術に触れながら保育士の資格が取得できるというので、私は第1志望にしました。ありがたいことに入学することができ本当に嬉しく思っています。

入学してからは、友人にも恵まれ、先生方の熱心であたたかいご指導のもと、子どもについて深く勉強し、ますます保育士への夢が膨らんできました。

大学生になって、子どもや人と関わることが、つくづく私は好きなんだとを感じるようになりました。大学生活はまだまだ始まったばかりですが、今ここに至るまでのたくさんの出会いに感謝して保育士を目指したいと思っています。





University of Brighton
Degree Show

ブライトン大学

ディグリーショー報告

後援会会長 菅沼 行生

5月28日(水)～6月2日(日)の5日間で英国の南海岸に位置するブライトン市にあるブライトン大学のディグリーショーに参加してきました。2日間は移動日として使われ、現地には3日間の滞在でした。一番の仕事は、「コングラチュレーション」と言って賞状を渡し、握手でもしておくことかと思っていました。しかし、表彰の前に後援会会長のスピーチがあると聞かされ驚きました。挨拶文は同行した国際交流センターの生駒さんに英訳していただきました。英文の挨拶文を大事に持って、スピーチできるか心配しながら出発しました。

参加者は、落合教授、現地で合流した須田准教授、海外経験の豊富な生駒さんと私の4名です。もう一人現地で長年活躍されている河野先生とも合流し、いろいろ案内していただきました。

1日目は、ブライトン大学で審査を行いました。音楽からデザイン画、絵画、立体作品ファッションまで幅広いジャンルの中から1等、2等、3等、佳作の12点を落合教授と須田准教授に選定していただきました。作品によっては、制作者本人が作品のプレゼンテーションを行いました。その時間調整のため校舎内を何度も行ったり来たりしながら審査を行いました。約4時間ほど審査を行いました。私は

1階から4階を往復した移動だけで疲れてしまいました。

評価の基準がよく判かりませんでしたが、卒業作品なのでそれぞれの作品に込められた作者の強い思いは伝わってきました。個人的には労作が多かったように感じました。審査が終わった後、熱心に審査された落合教授に作品の選定基準を尋ねました。訴えかける力があるか、独創性はどうか、共鳴できるものがあるか、理解性はどうかななどを基に判断すると教えていただきました。審査の際、両教授からは名古屋芸術大学のレベルの高さを再確認したと心強い言葉が聞かれました。その日の夕方は、賞状に受賞者の名前を記入し、会長名をサインをするという大事な仕事を一つしました。この夜はブライトン大学のブルース学長とアン部長を交えての懇親会を行いました。もちろん全て英語での会話でした。この時ほど、「英語をもっとまじめに勉強しておけばよかった」と思ったことはありませんでした。英会話ができれば多くの学びがあっただろうと悔やまれました。

2日目は、屋のレセプションに参加し、大学関係者との昼食会を行いました。この時も前夜と同様に英会話ができない辛さを実感しました。日本であれ



審査の様子





ブライトン大学

ば恥ずかしげもなく、酒をついでまわりながら、話がはずむところを、英会話に自信がなくて席を移動することができませんでした。残念でした。

夕方から表彰式に参列しました。特設のステージで、まずソウル国立美術大学から崔仁壽学長・章洙弘教授が表彰を行いました。続いて本学の表彰で、今回の最重要の仕事です。まず落合教授がスピーチを行いました。落合教授の落ち着いたスピーチの後、私が時々メモに目を落としながらスピーチを行いました。スピーチが終わり拍手をもらおうと、少しほっとしました。その後、受賞者の名前をブライトン大学の学長に呼んでいただき、順番に表彰しました。これは当初の予定通り「コングラチュレーション」と言って、受賞者一人一人に賞状と賞金や賞品を渡し、握手しました。受賞者の名前を呼び上げると、大きな拍手や歓声が鳴り響きました。受賞者はややはにかみながら賞状を受け取っていました。日本の大学の教授に認められたことは、おそらく彼らにとって大きな自信となったことと思います。

3日目は、河野先生を交えてゆっくりと朝食をとり、ディグリーショーを振り返りました。その後、ヒュースロー空港にバスで移動しました。帰りも韓国のインチョン空港で乗り換えて、日曜日の夜に中部国際空港に到着しました。

本年度、後援会の代表としてディグリーショーに参加させていただきました。落合教授、須田准教授、国際交流センターの生駒さん、現地の河野先生には大変お世話になり無事務めを果たすことができました。ありがとうございます。いつかもう少し英語を勉強し、観光で再びブライトン市を訪れたいと思います。今回の日程を終えました。

◆2008年ブライトン大学名芸大賞受賞者一覧

賞	所属	受賞者
The First Prize (1等)	Print Making	Betsy Dadd
The Scond Prize (2等)	Three dimensional Design	Hannah Scroggs
The Third Prize (3等)	Fine Art Painting	Sophie Kern
	Illustration	Sam Marsh
The Highly Commended (佳作)	Dance & Visual Arts	Danielle Brown
	Graphic Design	Jeremy Burrows
	Fine Art Sculpture	BridgetCaswell
	Fashion Textile	Helena Dunn
	Fashion Textile	Hannah Jenkinson
	Print Making	Adam McCandless
	Editorial Photography	Abigail Sidebotham
	Critical Fine Art	Rosalindo Young



表彰式

International Student Information

2008年度 音楽学部留学生懇談会が行われました



音楽学部に海外から留学している学生たちを励まそうと、2008年度の音楽学部留学生懇談会が7月9日(水)、東キャンパス2号館ホールで開催されました。中国と韓国からの留学生で音楽学部在籍している11名のうち、7名の学生が参加して行われました。



音楽学部国際交流委員長の久保田進子教授の進行で、まず、今回参加した留学生たちが一人ずつ自己紹介を行いました。ほとんどの



学生たちが、たどたどしくもしっかりした日本語で自己紹介のスピーチをしていました。その後、白木宏子学生部音楽学部主任の音頭で、参加者全員がお茶とジュースで乾杯し、懇談に入りました。

参加した留学生たちはサンドイッチを頬張りながら、担当の教員や国際交流センター・教務学生課の教職員としばしの歓談を楽しんでいました。こうして和やかな雰囲気の中の昼食を兼ねた懇談会となりました。最後に、久保田教授より留学生に対して「何か困ったことがあったら担当の教職員にいつでも相談するように」とのお話があり、懇談会を終了しました。

2008年度前期留学生のウェルカムパーティーが開催されました



3月末以降相次いで来学した交換留学生を招待して、本学西キャンパスの学生カフェテリアで、4月24日(木) 夕刻より「留学生のウェルカムパーティー」が開催されました。



本年度の留学生は、英国のブライトン大学から4名、ファルマス大学から1名、クリエイティブ・アート(創造美術)大学から2名。タイのスリナカリンウィロット大学から2名。韓国の龍仁大学から



2名、慶南大学から2名、驪州大学から2名の合計15名で、内13名が参加しました。

開会に先立ち、榊 達雄学長から歓迎のスピーチがありました。その後、留学生一人ひとりが挨拶に立ち、覚えての日本語で、自己紹介とこれからの抱負などについて語ってくれました。ブライトンからの留学生を含めてほぼ全員が日本語で挨拶するのは初めてのことで、国際教育センターの担当者も、留学生たちの日本語を学ぼうとする積極的な姿勢に驚いていました。

その後、懇親会に移り、留学生たちは日本人学生や教員たちと語り合いながら、和やかな雰囲気の中で、パーティーが行われました。

このような留学生との交流により、現在募集中の本年度本学からの海外派遣留学生の応募が増えることが期待されます。

来学交換留学生のみなさん(通年・前期)

		国名	大学名		名前
東キャンパス	音楽学部	アメリカ	デンバー大学(短期留学)	Ms.	Yeager Meeks Sonya
		アメリカ	デンバー大学(短期留学)	Mr.	Clifford Mark Mac Elroy
		韓国	慶南大学	Mr.	金 相燁
		韓国	慶南大学	Mr.	林 宰寛
西キャンパス	美術学部 デザイン学部	イギリス	創造美術大学	Mr.	Matthew David Young
		イギリス	創造美術大学	Mr.	Shnar Songprasert
		イギリス	ファルマス芸術大学	Ms.	Helen Underhill
		イギリス	ブライトン大学	Ms.	Hana Janeckova
		イギリス	ブライトン大学	Ms.	Claudia Marie Cannon
		イギリス	ブライトン大学	Mr.	Adam Place
		イギリス	ブライトン大学	Mr.	Marius Ian Grainger
		タイ	スリナカリンウィロット大学	Ms.	Vassana Boonsin
		タイ	スリナカリンウィロット大学	Ms.	Paweena Sangsuk-iam
		韓国	慶南大学	Ms.	具 旻慶
		韓国	慶南大学	Ms.	朴 廷珠
		韓国	龍仁大学	Mr.	趙 宗熙
韓国	龍仁大学	Ms.	尹 榮珠		

上記以外に、正規入学生、3年編入生、研究生、科目等履修生として11名の留学生の皆さんがいらっしゃいます。

クラブ紹介

クラブ名	活 動 内 容	活動場所
1 ピンポン☆DASH	卓球を通して、体力、集中力の増進を目指し、学生生活に生かす。	東キャンパス
2 ミュージックボランティア	大学の授業の実習以外での音楽・音楽療法活動を行う。	
3 ジャズ研究会	楽器によるジャズセッションを行う。	
4 フラワーショット	テニスを通じ、他学科、他学年との交流を深める。心身を鍛えテニスを楽しみ人間的にも成長する。	
5 フットサル	普段の学生生活の中ではあまり経験できないフットサル(サッカー)(チームプレー)を通じて、他の学科、学部の人などと交流を深め、自己を高めていく。	
6 ジャズバッキングオーケストラ	BIGBANDの演奏を通してよりよい音楽感を身につけ、感性豊かな人間形成を目標とする。たま、団体行動の中で個々の協調性を養う。	
7 KARADA 研究所	筋力と体力と精神力をつける事によって、声楽やピアノ、ミュージカルなどに必要な身体能力を養う。	
8 黒 色	卓上ゲームを学び伝統的ある卓上競技で人との接触や人間としての性質や交友関係を深め大学内においての結束や人間関係の向上、また、大会などでの団結力の向上を計る。	
9 ルーディメンツクラブ	名芸のドラマーの技術向上。苦しい練習でもみんなであれば楽しくなるをモットーに集団練習。マーチング楽器等で発表する場を設け、練習意欲を高めていきたい。	
10 爆 音 楽 部	月1~2回程 ライブを行う。野外音楽フェスティバル出演が最終目標。	
11 バドミントン部	バドミントンを通じて体力作りを行う。	
12 名古屋芸大陸上部	陸上競技のいろいろな種目を楽しみ、陸上競技のことをあまり知らない人たちに陸上競技の良さを知ってもらおう。	
13 タッチフット	タッチフット、ソフトバレー等を通じ、友情を深める。	
14 ソフトテニスクラブ	ソフトテニスをみんなで楽しみ、初心者の方もみんなで教え合いながら練習し、市の大会などに自分たちで出場する。また、他大学との交流試合や大会へも参加したい。	
15 自然とくらしを楽しむ会	自然をカラダで感じたい！伝承遊びを伝えたい！伝承行事・伝承料理・昔ながらのお菓子などを作りみんなに伝えたい！そして大学の行事を支えたい！	
16 リズム体操部	ラート、Gボールを用いてバランス感覚を養い、また、幼児体操ではリズム感を身に付ける事を目的とする。	
17 ゴスペルサークル	堅苦しい音楽に囚われず、自由に表現し楽しく歌を歌う。歌う方も聞く方も楽しめる音楽を作り出すことを目標とする。	
18 和 太 鼓 部	保育園・幼稚園の夏祭りや学祭、オープンキャンパスなどで演奏をするための練習を目的とし活動する。	
19 tennisubu	テニスを通じて、精神、体力を鍛え、交流の場を広げる。	
20 ゴンススキー部	スキーを楽しみながら、スキーに必要な体力を身につける。また、団体生活を通して団結力を深め、社会に必要な礼儀を身につける。	
21 着 付 け 部	着付けを通して、日本に古くから伝わる美とその精神を学びとる。	
22 郷土文化研究部	郷土資料の研究を通じ、我々の精神のルーツを再認識し、豊かな感性と確かな知性を身に付ける。また、共に作業を行うことで、友情を深め、切磋琢磨していくことを目的とする。	
23 空 手 部	空手を通して、心身の鍛錬及び護衛術の体得。豊富な器材を使つての筋トレ、体作り。	
24 バドミントン部	バドミントンを通して、運動不足を解消し、健康な体作りを目指す。また、学部の枠を越えた人付き合いも目指す。	
25 サ ッ カ ー 部	サッカー部のモットーは「両立」。大学生生活を、心身ともに、より充実した生活を送れる様に、サッカーを通して、たくさん笑い、楽しんで、より勉学に励むことを目的とし、共に成長し合えるように活動したい。	
26 動画漫画研究部	動画や漫画の制作を通して、自己表現の枠を広げる。	
27 写 真 部	写真技術の向上と写真表現の研究。写真部員同士による、写真と美術、デザインに対する関わり方の研究。	
28 自 由 音 楽 部	自由に音楽を楽しむことを目的とし、クラブや野外でのイベント、演奏、パフォーマンスをするため、日々練習をしている。音楽で空間や気持ちを盛り上げ、自由な音を発信する部活。	
29 軽 音 部	音楽を通して異なる学科との交流を深め、学校行事に積極的に参加し、大学生生活の充実を図っている。活動内容は、それぞれのグループに分かれてバンド活動を行い、楽器などの上達や、人との交流を深めている。	
30 卓 球 部	卓球大会に向けて、誰でも卓球は楽しめるから、皆で楽しむため。	
31 陶 芸 部	粘土を使って、物作りの楽しさや難しさを知ってもらい、作ったものを自分で使用したり、芸祭で売ったりする。	
32 サマータイムブルース(野球)	部員が、好きな野球を通じて、運動のみならず、勝利というものを意識して、お互いが励ましあい、支え合い、協調性や気配りなど、人間として、社会に出て活躍できる人格の土台作りの場を作るため。	
33 自然研究部(ファニシング)	創造する行為を通して、普段何気なく感じていたことを、違う視点から捉えることによって、新しい発見や感性を磨き、創造力を養っていく。	
34 剣 道 部	剣道を通しての人間形成。	
35 版 画 部	版画の普及、版画を選択していない学生に体験してもらう。	
36 バスケットボール部	楽しい学校生活を送るため。心身の健康を保つため。他学年との交流を図るため。	
37 バレーボール部	バレーボールの練習、試合。体を動かして、良い人間関係をつくる。	
38 演 劇 部	演劇を通して、自己の表現力の幅を広げると共に、団体で一つのことをする難しさを学ぶことを目的とする。	
39 レーシング部	レーシングを通して、仲間たちとの交流、技術と心身の向上を目指す。	
40 フォークギター部	ギターを通して友達との交流を図り、ギターの上達と人間的成長を高める。	
41 ストリートダンス部	ダンスをする事で、体を動かし健康的になり、ダンスで自己表現をして、皆で楽しむ。皆で一つのショーを作り上げることで学年の壁をなくして楽しむ。学祭を僕等のダンスで盛り上げたい。	
42 m & m ' s	映画を通して外国の言語や文化に触れ合い、皆と交流する。	
43 名芸映像研究部	映像作品の制作、上映、公募展等への出品。また、映像を通して色々な分野での幅を広げる。	

2008(平成20)年度 名古屋芸術大学音楽学部主催による演奏会案内

(※予定につき変更になる場合がありますので、事前にご確認ください。)

2008

7 July

第10回 ピアノコンチェルトの夕べ

指揮/古谷 誠一
管弦楽/名古屋芸術大学オーケストラ
曲目/C.サン＝サーンス：ピアノ協奏曲
第5番他
日時/7月9日(水) PM6：30開演予定
会場/しらかわホール
入場料/無料(全席自由)

8 August

第3回 国際交流教員コンサート ～名古屋芸術大学&リスト音楽院～

曲目/B.バルトーク：コントラスト 他
出演/ファルヴァイ・シャーンドル 他
日時/8月1日(金) PM6：30開演予定
会場/名古屋芸術大学3号館音楽講堂ホール
入場料/無料(全席自由)

第10回 ピアノ・サマーコンサート

日時/8月12日(火) PM5：30開演予定
会場/電気文化会館ザ・コンサートホール
入場料/無料(全席自由)
(当初予定と日程が変更になりました)

9 September

名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ 第27回 定期演奏会

指揮/ヤン・ヴァン＝デル＝ロースト
竹内 雅一
曲目/N.リムスキー＝コルサコフ(高橋
徹編曲)：スペイン奇想曲 他
日時/9月30日(火) PM6：30開演予定
会場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/1000円(全席自由)

10 October

名古屋芸術大学オーケストラ 第26回 定期演奏会

指揮/古谷 誠一
独奏/山本 裕康
曲目/A.ドヴォルザーク：チェロ協奏曲
口短調 他
日時/10月16日(水) PM6：45開演予定
会場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/1000円(全席自由)

研究生特別演奏会

日時/10月31日(金) PM6：00開演予定
会場/電気文化会館ザ・コンサートホール
入場料/無料(全席自由)

11 November

第16回 ピアノの夕べ

日時/11月6日(水) PM5：30開演
会場/電気文化会館ザ・コンサートホール
入場料/無料(全席自由)

第31回 定期演奏会

日時/11月13日(水) PM6：00開演
会場/しらかわホール
入場料/無料(全席自由)

12 December

名古屋芸術大学スペシャルコンサート ～コンチェルトの夕べ～

指揮/古谷 誠一
管弦楽/名古屋芸術大学オーケストラ
日時/12月4日(水) PM6：30開演予定
会場/しらかわホール
入場料/無料(全席自由)

第27回 室内楽の夕べ

日時/12月9日(火) PM6：00開演予定
12月10日(水) PM6：00開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全席自由)

電子楽器コース演奏会

日時/12月11日(水) PM6：30開演予定
会場/熱田文化小劇場
入場料/無料(全席自由)

平成20年度 音楽企画(6) “ザ・ルネッサンス21”

指揮/スティープン・シャレット
管弦楽/セントラル愛知交響楽団
日時/12月16日(火) PM6：30開演
会場/しらかわホール
入場料/1000円(全席自由)

2009

2 February

平成20年度 研究生修了演奏会

日時/2月12日(水) PM6：00開演予定
会場/電気文化会館ザ・コンサートホール
入場料/無料(全席自由)

大学院音楽研究科特別演奏会

日時/2月13日(金) PM6：00開演予定
会場/電気文化会館ザ・コンサートホール
入場料/無料(全席自由)

第7回 歌曲の夕べ

日時/2月14日(土) PM6：30開演予定
会場/電気文化会館ザ・コンサートホール
入場料/無料(全席自由)

第13回 春のコンサートピアノのしらべ

日時/2月21日(土) PM5：30開演予定
会場/電気文化会館ザ・コンサートホール
入場料/無料(全席自由)

第36回 卒業演奏会

日時/2月25日(水) PM6：00開演予定
2月26日(木) PM6：00開演予定
会場/しらかわホール
入場料/無料(全席自由)

アンサンブル・フィラルモニク・ア・ヴァン 第10回 定期演奏会

指揮/ヤン・ヴァン＝デル＝ロースト
小野川 昭博
日時/2月27日(金) PM6：30開演予定
会場/愛知県芸術劇場コンサートホール
入場料/1000円(全席自由)

3 March

大学院音楽研究科 第11回 修了演奏会

指揮/ヤン・ヴァン＝デル＝ロースト
管弦楽/コレギウム・アカデミカ(名古屋
芸術大学の教員を主体に編成され
たオーケストラ)
日時/3月3日(火) PM6：30開演予定
3月4日(水) PM6：30開演予定
3月5日(木) PM6：30開演予定
会場/しらかわホール
入場料/無料(全席自由)

ミュージカル公演 「Pretty Mighty Jeanne! ～オルレアンの聖少女～」

脚本・演出/森泉 博行
音楽/井上 堯之、長谷川 雅大
振付/名倉 加代子
指揮/竹内 雅一
日時/3月13日(金) PM6：30開演予定
3月14日(土) PM2：00開演予定
会場/名古屋市青少年文化センターホール
入場料/1000円(全席自由)

第31回 オペラ公演 「カヴァレリア・ルスティカーナ」

演出/Dario Pionisi(ダリオ・ピニッシイ)
指揮/古谷 誠一
管弦楽/名古屋芸術大学オーケストラ
日時/3月18日(水) PM6：30開演
会場/中京大学文化市民会館 プルニエホール
(旧 名古屋市民会館 中ホール)
入場料/指定席(1階)1500円
自由席(2階)1000円

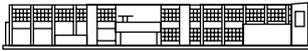
●お問い合わせは●

名古屋芸術大学音楽学部 演奏課
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281
TEL (0568) 24-5141

アート&デザインセンター 2008/2009 展覧会スケジュール

2008	
3月26日(水)~4月9日(水)	佐藤園夫展 名古屋芸術大学収蔵作品展
4月11日(金)~4月16日(水)	ドアと車輪展
4月11日(金)~4月16日(水)	聖なるものを犬にやるな
4月11日(金)~4月16日(水)	日々刻々と寂
4月18日(金)~4月23日(水)	デザイン学部レビュー選抜展
4月25日(金)~5月7日(水)	「ひかりのたべかた」写真部展
4月25日(金)~5月7日(水)	男子四名一室展
5月9日(金)~5月14日(水)	洋画コース7人展
5月9日(金)~5月14日(水)	1+1=たんぼの田だろうか?
5月16日(金)~5月21日(水)	照明の証明
5月16日(金)~5月21日(水)	ying yang
5月23日(金)~5月28日(水)	peace nine (九条の会)
5月23日(金)~5月28日(水)	お国展
5月30日(金)~6月11日(水)	FROM REMISEN #10 Sigrun Gunnarsdottir+Ulnike Donie
6月13日(金)~6月18日(水)	others vol.2 悲しいカレー展
6月13日(金)~6月18日(水)	書道演習作品展
6月20日(金)~6月25日(水)	大学院 同時代表現研究領域1年 第1回同展
6月27日(金)~7月2日(水)	へその緒地帯
6月27日(金)~7月2日(水)	Biginning scene 2 名芸映像研究部
7月4日(金)~7月9日(水)	前期留学生展
7月11日(金)~7月16日(水)	展覧会をつくろう! 洋画コース 4年3年選抜展
7月18日(金) 7月23日(水)	素材展
7月24日(木)~9月10日(水)	夏期休館
9月11日(木)~9月17日(水)	ソフトスマテリアルーやわらかい頭によるやわらかい彫刻たちー
9月19日(金) 9月30日(火)	企画 会田 誠と美術大学学生たちとのコラボレーションワーク MONUMENT FOR NOTHING II
10月3日(金)~10月8日(水)	デザインと文化『本』展
10月10日(金)~10月15日(水)	大学院洋画制作展 '08
10月17日(金)~10月20日(月)	AB展(彫塑コース)
10月22日(水)~10月29日(水)	SAVE THE FILM ゼラチンシルバーセッション
10月31日(金)~11月5日(水)	境界から見えるモノ
11月7日(金)~11月12日(水)	中国からの風
11月14日(金)~11月19日(水)	幼稚園児たちのゲイジツ展
11月21日(金)~12月3日(水)	企画展 Drawing Encounter : Hannover&Nagoya
12月12日(金)~12月17日(水)	工芸コース作品展
12月24日(水)~1月5日(月)	冬期休館
2009	
1月6日(火)~1月10日(土)	日本画3年作品展
1月14日(水)~1月20日(火)	「聖母の御眠り」模写展
1月27日(火)~2月4日(水)	AFTER REMISEN #10 荻野佐和子+小澤輝余子
2月24日(火)~3月1日(日)	卒業制作展

◎スケジュールは変更になる場合がありますので、事前の確認をお願いいたします。

Art & Design Center 

名古屋芸術大学アート&デザインセンター 〒481-8535 北名古屋市徳重西沼65番地 tel.0568-24-0325 fax.0568-24-0326

TOPICS *pick up*

山下洋輔 公開講座が行われました



2008年6月12日(木)、名古屋芸術大学東キャンパス3号館音楽講堂において、本学特別客員教授である山下洋輔氏による本年度第一回目の公開講座が開催されました。音楽文化創造学科ジャズ・ポップスコース竹本義明教授の挨拶に引き続いて、山下洋輔氏がいつものウェストコート姿で登壇し、まず、「ジャズ音楽とはどんなものなのか」「なにがジャズなのか、どこからジャズになるのか」など、ジャズ音楽の基本について、ピアノを使って音やリズム、ハーモニー、和音の違いなどを詳しく解説してくれました。

続いて、ジャズ音楽の中では最もポピュラーな名曲である「スワニー河」を山下氏自身のアレンジで演奏してくれました。まるで鍵盤の上を両手で滑らせたり叩きつけるような素早い動きで、まさにジャズ音楽の真髄ともいえる聴衆を圧倒する迫力のある演奏でした。

この後、ジャズ・ポップスコースや音楽総合コースから4名の学生が代表して舞台に上がり、それぞれサックス・ピアノ・ベース・ドラムによるジャズセッションが行われました。学生一人ひとりの演奏に対し、山下氏から丁寧なアドバイスが行われ、ジャズ演奏時の吹き方、弾き方や打ち方、リズムや和音の取り方など具体的な指導が行われました。指導後の学生達の見違えるような演奏に、聴衆から大きな拍手が贈られていました。

こうして90分の公開講座は瞬間に終了しました。次回の講座が楽しみです。

ヘルムート・ランガー氏によるワークショップが行われました



4月25日午後、本学西キャンパスX棟において、ヘルムート・ランガー氏によるワークショップが前日の特別講演会に引き続いて行われました。

ドイツおよびEU諸国を中心に、コミュニケーションデザイナーとして長年にわたって活動してきたヘルムート・ランガー氏は、グローバル化し、多国籍化した今日の世界の働く職場の問題を、CSCP(持続可能な消費・生産センター)およびUNEP(国連環境計画)による企画をデザイナーの視点からその改善の施策を視覚化するプロジェクト「Doing SMART Business-Week by Week」をすすめています。



この地球規模の環境危機の中で、エコロジー問題、人権問題、人種問題などを抱える中で今日の世界の人々の働く職場、ビジネスのあり方を見つめ直さなければならない状態にあります。このプロジェクトは、経営者にとってもそこで働く労働者にとっても、よ

り快適に仕事ができる環境を生み出すための提案を52のテーマ(行動の提案)にまとめ、毎週、1年間一52週の視覚化されたカレンダーと小冊子にまとめ出版するプロジェクトです。

そして、このプロジェクトは、そのデザインを、世界11カ国(ドイツ、イギリス、イタリア、ロシア、カナダ、ペルー、オーストラリア、ジンバブエ、インド、中国、日本)のデザイン教育機関の学生の作品を採用しようという、デザイン教育のプロジェクトでもあります。

本学デザイン学部は、この呼びかけにこたえヴィジュアルデザインコース、イラストコースの3年生が参加し、このプロジェクトを成功させるべく取り組んでいます。

ワークショップでは、まずランガー氏による52のテーマに基づいたデザインの紹介と解説が行われました。その後、学生たちが描いたデザインについて、ランガー氏から一人ずつ丁寧に指導が行われました。学生たちにとって世界的に著名なデザイナーから直接指導を受ける貴重な機会となりました。

人間発達学部特別公開講座「これからの幼児教育を考える …幼稚園教育要領と保育所保育指針の改訂を受けて…」が開催されました

2008年8月9日(土)、愛知県女性総合センター(ウィルあいち)大ホールにおいて、人間発達学部の特別公開講座が開催されました。

本学人間発達学部では、研究活動の一層の推進を図るとともに、地域に開かれ、地域に貢献できる学部を目指して、本年4月に「人間発達研究所」を設立しました。このたびの特別公開講座は、人間発達研究所事業の一つとして開催されたもので、講師に大妻女子大学の柴崎正行先生をお招きして、「これからの幼児教育を考える…幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂を受けて…」というテーマで講演をいただきました。

太田悦生人間発達学部長による開会の挨拶、講師紹介の後、公開講座が始まりました。

柴崎先生は冒頭に、「今回の幼稚園教育要領と保育所保育指針の改訂は、非常に大きな意味がある」と、幼稚園教育要領と保育所保育指針の改訂に深く携わって来られた立場から、改訂の背景やその意義などについて詳しく解説されました。第一に、乳幼児期は「人格形成の基礎を培う時期」であることが平成18年に改正された教育基本法に明確に示されたこと、第二に、平成

19年6月に改正された学校教育法で、幼稚園が最初に位置づけられ、幼稚園は「義務教育の基礎」であり、その後の教育の基礎を培うものである点が明確にされたこと、第三に、保育所保育指針が幼稚園教育要領、学習指導要領と同時に一貫性をもって示されたことが挙げられました。

続いて、その改訂の中身について、一つ目は『身体を動かすことの大切さ＝外遊びをしてよく身体を動かすこと』、二つ目は『規範性を身に付けること＝集団のルールはお互いが気持ちよく生活すること』、三つ目は『協同性の獲得＝皆で力をあわせること』が具体的事例を交えてわかりやすく説明され、これらの体験が小学校の学習につながり、幼・保と小学校の先生がお互いに交流していく、幼保と小学校の「接続」の意義であること、そのほか、「子育て支援」の意味についても触れられ、子どもの視点を疎かにしてはならないことが強調されました。

800席の大ホールは、本学人間発達学部の学生や県内外の保育所及び幼稚園の関係者で埋め尽くされ、1時間半にわたる講演でしたが、熱心にメモをとる姿がみられました。



受付の様子



講演中の柴崎先生



会場の様子

小牧市との産学官協同プロジェクト「小牧市民ギャラリーオープン記念展」で『名古屋芸術大学卒業制作優秀作品展』が開催されました

小牧市まなび創造館(愛知県小牧市小牧3丁目555ラピオ4階)内に、小牧市民ギャラリーがオープンしました。このギャラリーのオープン記念イベントの一つとして、2008年8月2日(土)から8月14日(木)まで、名古屋芸術大学卒業制作優秀作品展が開催されました。

この展覧会は、小牧市と本学及び近隣の大学との産学官協同プロジェクトの一環として実現したものです。

作品展では、本学美術学部及び版画選択コースの2000年度から2007年度までの卒業制作作品の内、日本画7点、洋画8点、彫塑・造形・工芸(陶)・工芸(ガラス)各1点、版画3点、合計22点の優秀作品が展示されました。

期間中は、小牧市民を中心に大勢の方が訪れ、熱心に作品を鑑賞されていました。



後援会授業料貸付事業

世間では景気がよくなっているといわれますが、なかなか庶民はそれを実感することができません。このような中で決して安いとは言えない芸術系大学の授業料は、家計を直撃しているのではないかと思います。こうした状況の中で、保護者が亡くなられたり病気になられたり、失業された家庭は、ひどく大変だと思います。このような家庭の学生諸君の少しでも助けになればと考えて始められたのが、後援会の授業料貸付事業です。1993年にこの事業が始まってから、現在までに70数名の学生がこの事業の恩恵を受けています。

後援会員の皆さんが納められた会費を、この事業の基金としているため、むずかしい条件がついていますが、次の貸付規程を読まれて、後援会の授業料貸付事業を活用していただけたらと思います。申込受付窓口は、各キャンパス教務学生課となっています。気楽に相談してみてください。

名古屋芸術大学後援会学費資金等の貸付規程

(目的)

第1条 名古屋芸術大学後援会(以下「後援会」という。)が行う学生の福利厚生事業の一環として、家計急変等により学費の納入が困難な学生に対し、後援会が学費を貸し付けることにより修学を援助することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程により学費の貸付を受ける者を、名古屋芸術大学後援会学費貸与生(以下「貸与生」という。)と称する。貸付する学費を名古屋芸術大学後援会貸付金とする。

(資金)

第3条 学費貸付金は次の資金をもってこれにあてる。

- (1) 後援会学費貸付口座預金
- (2) この規程に基づく返還金
- (3) 寄付金・その他の収入

(貸付額)

第4条 該当学年の学生納付金半期分以内とする。

- 2 貸付金は無利息とする。
- 3 未返済金がある者に対しては、貸し増しは行わない。

(貸付方法)

第5条 学費貸付は、大学授業料口座への振込みによって行う。

(審議)

第6条 貸与生及び貸付額の決定に関しては、学生部長が大学の全学教務学生委員会の審議を経て、後援会会長に推薦する。

(貸与生の決定)

第7条 貸与生の決定は、後援会会長が行なう。

(貸与生の選考基準)

第8条 貸与生の選考基準は、以下に基づいて選考する。

- (1) 1年以上継続した本会会員の子弟であること。
- (2) 家計急変等のため本学に修学することが、特に困難であること。
- (3) 応募者の属する世帯の1年間の総所得金額が独立行政法人日本学生支援機構の収入基準以下であること。
- (4) 修学に十分耐うるものと認められること。

(申請手続)

第9条 学費貸付を希望するものは、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

なお、手続は学生部教務学生課を窓口とする。

(1) 後援会貸付金借用願

(2) 貸付金返済計画書

(3) 学費貸付希望者の所属する学科長の推薦書

(4) 学費貸付希望者の属する世帯の1年間の総所得金額を証明する書類。

(借用手続・借用証書)

第10条 学費貸付決定者は、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

- (1) 借用証書(借用願と同じ保証人および連帯保証人の連署を要する)
- (2) 貸付金返済計画書に基づく同意書
- (3) 銀行口座振替依頼書(自動送金サービス用)(学籍を離れる時に提出するものとする)

(返還及期間)

第11条 貸付金は、学籍を離れてから3年以内で返還しなければならない。ただし、借用願出の際に虚偽の記載があった時は、直ちに返済するものとする。

- 2 返還方法は、一括返済または元金均等割とする。
- 3 貸付金の返還は、いつでも繰り上げて返還することができる。
- 4 返還は、学生部教務学生課を窓口とする。

(返還猶予)

第12条 貸与生が傷病・その他やむを得ない事由によって返還猶予を願い出たときは、相当と認める期間猶予することができる。

(権限委任)

第13条 この規程に基づく学費貸付金の貸付手続き及び返済收受等の一切の権限を学長に委任するものとする。なお、この規程で疑義が生じたときは、会長と学長が協議のうえ決定する。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、後援会の総会の議を経て会長が行なう。

附則

- 1 この規程は昭和61年7月1日から適用する。
- 2 この規程は昭和63年4月1日から適用する。
- 3 この改正規程は平成16年4月1日から適用する。
- 4 この改正規程は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会(以下「本会」という)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
 (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
 (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
 (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
 (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 (2) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の任期は次のとおりとする。
 (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐、会長事故ある時はその代理をする。
 (2) 監事は会務を監査する。
 (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
 (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
 (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
 (3) 役員を選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第14条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。
- 第15条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第16条 本会則の運営に必要な事項は、役員会の議を経て会長が定める。
- 附則 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。
 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。

名古屋芸術大学後援会の弔意に関する内規

- 1 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
- 2 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
- 3 役員の上親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
- 4 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
- 5 この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

名古屋芸術大学後援会顧問の委嘱に関する内規

- 1 名古屋芸術大学の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
- 2 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
- 3 この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

学校法人名古屋自由学院決算報告

2007年度 消費収支計算書

2007年4月1日から2008年3月31日まで

(1) 決算 概要

① 消費収支の概要

(単位：千円)

消費収入の部			
科 目	前 年 度	当 年 度	増 減
学生生徒等納付金	4,218,792	4,120,690	△98,102
手数料	79,783	70,500	△9,283
寄付金	11,638	13,771	2,133
補助金	502,917	503,945	1,027
雑収入他	105,673	116,764	11,090
A 帰属収入計	4,918,804	4,825,670	△93,134
基本金組入額	△960,597	△520,825	439,773
B 消費収入の部合計	3,958,206	4,304,845	346,639

消費支出の部			
科 目	前 年 度	当 年 度	増 減
人件費	2,815,747	2,948,486	132,739
教育研究経費	1,398,145	1,395,701	△2,444
管理経費	433,826	444,350	10,524
借入金等利息他	13,184	9,846	△3,338
C 消費支出の部合計	4,660,902	4,798,383	137,481

B - C 消費収支差額	△702,696	△ 493,538	209,158
A - C 帰属収支差額	257,902	27,287	△230,615

(コメント)

平成19年度の帰属収支は、前年と比較すると230,615千円減少しましたが、27,287千円の黒字を確保できました。前年と比較し大きく減少した原因は、学納金が98,102千円減少したことと、人件費が132,739千円増加したことによります。

また、補正予算から好転した原因は、補助金交付額が43,698千円増加し、教育研究経費が86,355千円並びに管理経費が44,911千円減少したことによります。

(注) 千円未満四捨五入(端数処理の関係で合計金額等が一致しないことがあります。)以下も同様

貸借対照表

2008年3月31日現在

② 貸借対照表の概要

(単位：千円)

資産の部			
科 目	前年度末	当年度末	増 減
固定資産	16,018,843	16,519,665	500,823
有形固定資産	13,987,934	14,115,422	127,487
その他の固定資産	2,030,908	2,404,244	373,335
流動資産	4,455,001	3,899,031	△555,970
資産の部合計	20,473,843	20,418,697	△55,147

負債の部			
科 目	前年度末	当年度末	増 減
固定負債	882,267	848,830	△33,437
流動負債	1,148,321	1,099,325	△48,997
負債の部合計	2,030,589	1,948,155	△82,434

基本金の部			
科 目	前年度末	当年度末	増 減
1号基本金	19,155,181	19,567,006	411,825
3号基本金	0	100,000	100,000
4号基本金	334,000	343,000	9,000
基本金の部合計	19,489,181	20,010,006	520,825

消費収支差額の部			
科 目	前年度末	当年度末	増 減
消費収支差額の部	△1,045,926	△1,539,464	△493,538

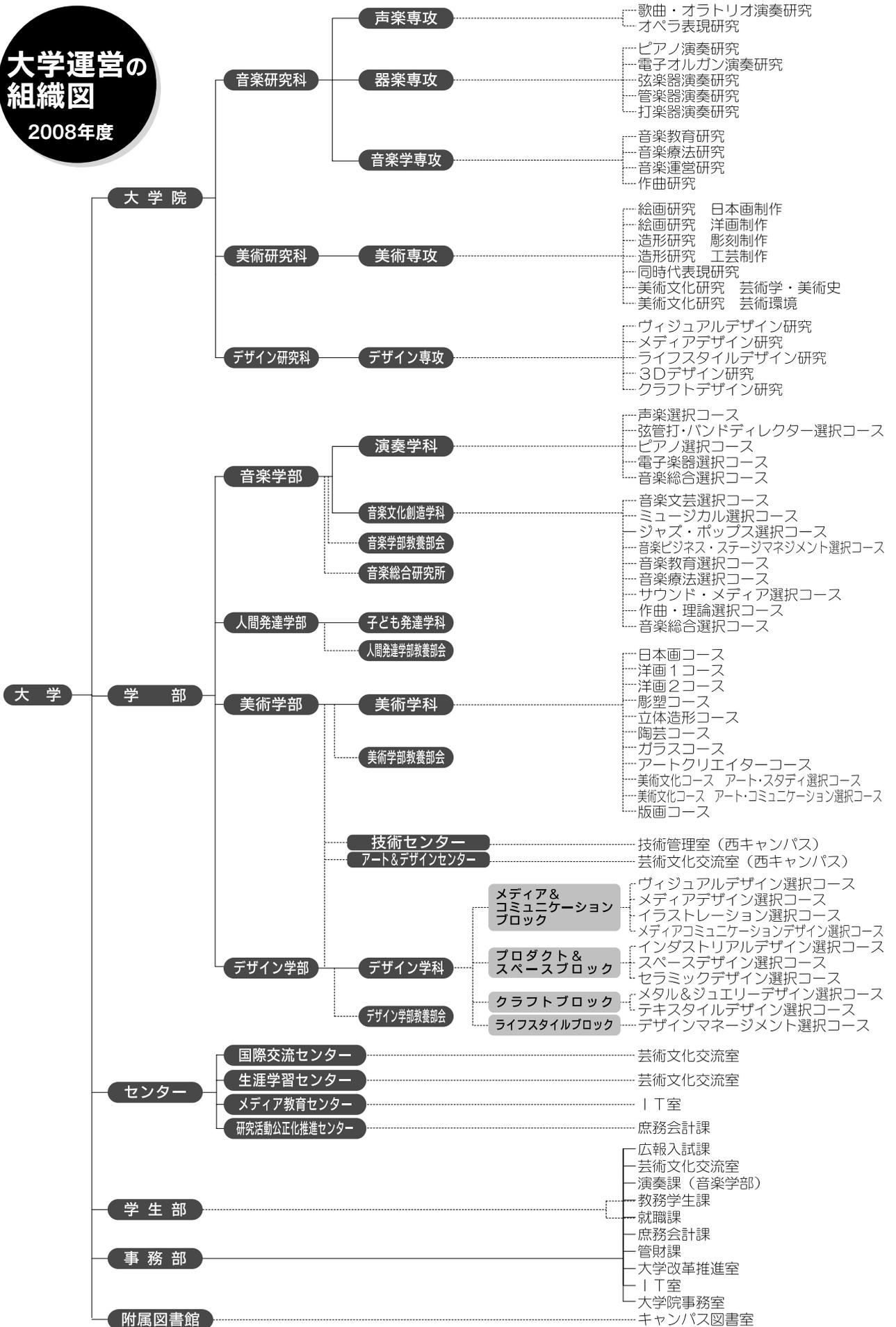
科 目	前年度末	当年度末	増 減
負債・基本金の部	20,473,843	20,418,697	△55,147
消費収支差額合計			

(コメント)

19年度末の資産総額は204億18百万円で、前年に比べ55百万円減少しました。流動資産が前年と比べると、5億55百万円減少していますが、原因は①有形固定資産の取得と、②流動資産からその他の固定資産への科目移動（預金から引当金へ）が主な要因です。自己資金構成比率（＝（基本金＋消費収支差額）÷（負債＋基本金＋消費収支差額））は90.5%（前年は90.1%）と高い比率で推移しています。

大学運営の組織図

2008年度



■「木祖セミナーハウス」をご利用ください

所在地：〒399-6203 長野県木曾郡木祖村大字小木曾4793

電話：0264-36-2570

アクセス：①マイカー利用—中央自動車道中津川インターより国道19号で90分走行、藪原より村道15分

②公共交通機関利用—JR中央西線藪原駅下車

バス利用25分「五月日(ごがつひ)」下車徒歩10分、

またはタクシー利用10分(要予約TEL. 0264-36-2403やぶはらタクシー)

利用できる期間：通年(ただし、12月30日～1月2日は休業)

利用できる方：①名古屋芸術大学ほか学校法人名古屋自由学院傘下の学校の学生・園児

②学校法人名古屋自由学院の教職員・その家族

③①の学校の卒業生・その家族

④その他特に使用が認められた方

(①の学生・園児の家族など)

(③④の方は、①②の方の紹介が必要です。)

利用料(食事は含まない)：学生 1,000円

園児 500円

教職員 1,500円

その他 2,000円

(同伴の3歳以上小学生以下は1,000円、2歳以下は無料)



食事：利用申し込みの際に予約してください。(料金は夕食1,500円、朝食500円)

利用申し込み手続き：下記申し込み先へ、電話で仮予約をしてください。その後の手続きは、そのときにご説明します。

付近の観光スポット：「こだまの森」(テニスコート・プール・パターゴルフ・ピクニックガーデン・多目的運動場・バーベキューハウス・巨大迷路・溪流釣りなど)、やぶはら高原スキー場、木曾福島、上松、寝覚の床、野麦峠、上高地、白骨温泉、乗鞍高原など

問い合わせ先・申し込み先：学校法人名古屋自由学院法人事務局総務部総務課(TEL. 0568-24-0311)

編集後記

連日流されるニュースは、テロ、無差別殺人、自殺、いじめ、詐欺、汚職、etc

どれも目をおおいたくなるものばかりです。そしてそんな人間の愚かさをあざ笑うかのごとく起こる地球の異常現象…。自分自身の道を見つけようとして、悩み、揺れ動いている学生たちにとって、未来への展望を持ちにくい時代といえるでしょう。混沌とした時代にこそ人の心を揺さぶる「文化芸術の力」が必要です。学生たちに自身の感性を磨き想像力を養い、豊かな人間になってほしい…そしてこの混沌とした時代を明るく力強く生きぬいて欲しいと思います。そのために私たちができることは何か？共に明るい未来を展望できるように模索していきたいと思っています。

広報委員長 後藤 優子

◆発行 名古屋芸術大学後援会

〒481-8535

愛知県北名古屋市徳重西沼65番地

TEL 0568-24-0325 FAX 0568-24-0326

◆編集 名古屋芸術大学後援会 広報委員会

◆表紙デザイン

本学デザイン学科学生 武藤理恵子

◆封筒デザイン

本学デザイン学科卒業生 福見光洋

◆発行日 2008年(平成20年)9月25日

